

第四十五回帝國議會
衆議院

刑事訴訟法案委員會特別調查委員會會議錄(速記)第一回

會議

大正十一年二月二十日午前十一時二十五分開議

出席委員左ノ如シ

委員長 鵜澤 總明君

委員 成章君

磯田三郎君

鈴木富士彌君

出席政府委員左ノ如シ

司法次官

司法省刑事局長

司法省參事官

司法省參事官

司法書記官

司法事務官

委員長ノ許可ヲ得テ出席シタル者左ノ如シ

横山金太郎君

本日ノ會議ニ上リタル議案左ノ如シ

刑事訴訟法案

○鵜澤委員長 刑事訴訟法案ノ小委員會ヲ開キマスガ、是ハ如何ニ致シマセウカ、第一編總則、第一章裁判所ノ管轄、之カラ先ヅ十箇條——第十條迄ヲ議題ニ供シタル如何デセウカ

○横山(勝)委員 委員長ノ言ハル、方法モ宜シイガ、纏メテ議題ニ供スルト、質問ガ重複スルコトモアリマスカラ、一條一條ツツ極メテ行ッテハドウデスカ

○鵜澤委員長 ソレノ方ガ良ケレバサウシマセウ——ソレデハ第一條ヲ議題ニ供シマス

○横山(金)委員 第一條ニ「被告人ノ住所居所若ハ現在地」トアリマスガ、唯現在地トシテハ、總テヲ包括スルコトニナリマセスカ

○林政府委員 現在地ハ被告ノ身柄ノ存在スル場所デス、住所居所ハ必ズシモ被告人ノ身柄ガ在ルトハ言ヘマセヌ、ソレドウシテモ斯ウ學ガル必要ガアリマス

○鵜澤委員長 一條ハ、外ニアリマセスカ——無ケレバ第二條、是モ無イデセウ——第三條——第四條——第五條

第六條——第七條

○上島委員 第七條ハアリマス——本條ハ檢事ノ請求ニノミ併合ヲ委ネズシテ、被告人ノ請求ニ因テモ亦併合ヲ許ス

第五類第八號附屬 刑事訴訟法案委員會特別調查委員會會議錄

第一回 大正十一年二月二十日

コトニシタガ、檢事ト被告人ト訴訟上ニ平等ニ待遇スルト云フ主義ノ上カラモ良カラウト思ヒマス、殊ニ被告人ガ今日ハ東京、明日ハ大阪ト云フヤウニ、裁判所ニ出頭スルコトハ不便ヲ感ジマスカラ、被告人ニモ請求權ヲ與ヘル方ガ便宜ト思ヒマスガ、如何デスカ

○林政府委員 管轄ノ標準トナル事項ハ、法律デ認メテアリマシテ、其何レニ起訴スルカハ、檢事ガ決定スルノデアリマス、ソレデ檢事ガ被告人ノ利害ヲ考慮スルノハ勿論デアリマスカラ、法律ノ建前トシテ、檢事ガ決スルコトニシタガ良カラウト思ヒマス、第七條モ其趣意カラ參ッテ居リマス、サウシテ又實際ノ運用上ニモ、是デ差支ナイト思ヒマス

○上島委員 實際ノ運用上ニハ差支ガアリマス、マイガ、訴訟法ガ進歩シタル形式ニ則ッテ、檢事ト被告人ヲ平等ノ地位ニ置ク以上ハ、被告人モ此請求ノ權利ノ行使ヲ檢事ニ望ムト云フコトニシタガ良カラウト思ヒマス、併シ被告人ニ其權利ヲ與ヘルト、斯ウ云フ弊害ガアルト云フナラバ別デスガ、其外ニ格別深イ理由ハアリマセヌ

○林政府委員 其點ハ、檢事ガ原則上諸般ノ關係ヲ考慮シテ、適當ト認ムル裁判所ニ起訴スル建前ニナッテ居リマス、御説ノ様ニスルト、第一條ノ場合ニモ、被告人ガ自己ノ都合ヲ中立テ、外ノ裁判デヤッテ貰ヒタイト云フコトニナリマス、ソレデ法律ノ建前トシテハ、ドウモ此方ガ良カラウト思ヒマス

○鵜澤委員長 第七條ニ付テ外ニナケレバ第八條——第八條ハ一寸私ガ質問シタイノデス、數個ノ事件ハ左ノ場合ニ於テ牽連スルモノトス「ト云フノハ、訴訟上ノ便宜ノ扱カラスウ云フ規定ヲ設ケラレタモノデセウカ、或ハ其刑事上ノ事件ノ本質カラスウ云フ規定ヲ設ケラレタモノデアリマセウカ

○林政府委員 主トシテ訴訟手續上ノ便宜カラ出テ居リマス

○鵜澤委員長 ソコデ一二三四ハ、一ハ一人デ數罪ヲ犯ス場合、二ハ數人共ニ同一又ハ別個ノ罪ヲ犯シタモノ、此方ハ數人ガ共同恰モ一人ノ如クナッテヤッテ居ルヤウニ見エルノデアリマスガ、此意思關係ハドウナリマスカ

○林政府委員 一ノ場合ハ、是ハ要スルニ廣イ意味ノ共犯關係ヲ指シテ居リマス、特ニ同一又ハ別個ノ罪ト云フモノハ、共犯關係デアラカラテ、常ニ同一罪名ト云フコトニ參リマセヌ、共謀ヲヤリマシテ、一人ハ強盜罪、一人ハ強盜罪

ト云フコトガアリマスカラ、ソレデ其等ノ點ニ付テ疑ヲ避ケル爲ニ、實ハ少シ丁寧過ギルカ知リマセヌガ、此趣意ヲ明ニスル爲ニシタノデアリマス

○鵜澤委員長 三ノ通謀ト云フコトニナリマス、是ハ共犯ノ……

○林政府委員 是ハ共犯關係ガ刑法ノ上ニ於テ認メラレナイ數人ガ相談シテ、一人ノ者ガ北海道ヘ行ッテ人ヲ殺ス、一人ハ九州ヘ行ッテ泥棒ヲシテ居ルト云フヤウナ場合、初メ相談シテモ、殺人罪ナリ強盜罪ニ付テ、共犯關係ガ刑法ノ上ニ於テ認メラレナイ場合ヲ見タノデス

○鵜澤委員長 ソレカラ四ハ、同時ニ同一ノ場所ト云フ意思ガ違ッテ居リマスカ

○林政府委員 サウデアリマス、意思等ノ聯絡ハ少シモ必要トシテ居リマセヌ、同ジ場所デ共謀セズシテ、同時ニ攪リ合ヒマスルコトガ諸方ニ起ルト云フヤウナデアリマス

○鵜澤委員長 サウスルト是デ扱上モ總テノ場合ヲ含ンデ居リマスカ

○林政府委員 先ヅ普通手續上必要ト思ヒマスノハ、第一カラ第四迄デアリマス、其外ニ第二項デ、特定ノ場合ニ於キマシテ、第一ニ準ズルコトニ致シマシタ、是デ實際上差支ナカラウト考ヘマス

○鵜澤委員長 八條ハ外ニ質問ハアリマセヌカ——第九條第十條——第十一條

○横山(勝)委員 此十一條、ソレカラ十二條、十三條、是ダケハ私ノ質問ノ趣旨ガ關聯致シテ居リマスカラ、一括シテ質問致シマス

○鵜澤委員長 ソレデハ十一條、十二條、十三條ヲ一緒ニ議題ニ供シマス

○横山(勝)委員 十一條ノ規定ニ依レバ、裁判所ガ自カラ管轄權ヲ有スル場合ハ、管轄區外デ其職務ヲ行フコトガ出來ル、ソレカラ十三條ハ、管轄權ノ無イニ仕事ヲスルコトガ出來ル、斯ウ云フコトニナッテ居リマシテ、此十一條ト十三條ト云フモノガ極度ニ適用サル、コトニナリマス、本法案ニ於キマシテ幾多ノ事例ヲ設ケラレテ居ル、管轄ニ關スル規定ト云フモノハ、殆ド其意味ヲ爲サヌコトニナリマス、無論ハ例外ノ場合ヲ規定シタモノト思ヒマス、ケレドモ、事實發見ノ爲ニ必要デアラカラテ云フノデ、東京地方裁判所ノ職員ガ、浦和ニモ、千葉ニモ、勝手放題ニ行ッテ、仕事ガ出來ル、是ハ元來ハ東京地方裁判所ノ管轄ニ屬セヌケレド

ト云フコトガアリマスカラ、ソレデ其等ノ點ニ付テ疑ヲ避ケル爲ニ、實ハ少シ丁寧過ギルカ知リマセヌガ、此趣意ヲ明ニスル爲ニシタノデアリマス

○鵜澤委員長 三ノ通謀ト云フコトニナリマス、是ハ共犯ノ……

○林政府委員 是ハ共犯關係ガ刑法ノ上ニ於テ認メラレナイ數人ガ相談シテ、一人ノ者ガ北海道ヘ行ッテ人ヲ殺ス、一人ハ九州ヘ行ッテ泥棒ヲシテ居ルト云フヤウナ場合、初メ相談シテモ、殺人罪ナリ強盜罪ニ付テ、共犯關係ガ刑法ノ上ニ於テ認メラレナイ場合ヲ見タノデス

○鵜澤委員長 ソレカラ四ハ、同時ニ同一ノ場所ト云フ意思ガ違ッテ居リマスカ

モ、急ぐカラ、事實發見ノ爲ニ必要ナコトカラ出來ルト云フコトニナリマス、事物ノ管轄ニ於テモ、制限ガ無いコトニナリマス、元來管轄權ノ無イ事件ニ關シテモ、裁判所ガ仕事ヲスルコトガ出來ル、斯ウ云フコトニナリマス、管轄ニ關スル規定ノ精神ハ、全ク蹂躪セラル、コトニナルト思ヒマスガ、本案ノ趣旨ハ、管轄ニ關スル規定ヲ餘リ嚴重ニ勵行シナイト云フ趣旨ヲ包含シテ居ルノデハナイカト思ハレマス、何トナレバ管轄權ノ申出ニ關スル場合、若クハ此檢事トカ、其他ノ關係人ノ請求ニ依ッテ、管轄權ヲ變更スルコトノ出來ル場合、今數箇條ノ質問ノアツタ場所等ノ關係カラ見マスト、現行刑事訴訟法程、管轄權ノ嚴重ニ見ナイ趣旨ニ見ルコトガ出來マスガ、サウ云フ意味ニナッテ居リマス、其點ヲ諒解シタイ

○林政府委員 管轄ノ點ニ付キマシテ、本案ハ現行法ヨリハ幾分力窮テナクシタコト云フコトハ、御尋ノ通りデアリス、其理由ハ理由書ニ大體書イテアル次第デアリマス、第十一條、第十三條ハ勿論例外的ノ規定デアリマス、實際上斯ノ如キ規定ヲ置ク必要ヲ感ジマシテ、特ニ規定シマシタ、ソレハ十一條ノ例ヲ申シマス、御承知ノ通り現場ノ臨檢ヲシテ、現場ノ事情ヲ明ニシナケレバ真相ガ分ラヌト云フコトガ隨分アリマス、所ガ其現場ガ管轄區域外デアルト云フ場合ニ、此規定ガアリマセスト、共助方法ニ依ッテ受託裁判所ノ書類ニ依ッテ、裁判シナケレバナラヌ結果ニナリマス、是ハ間接審理ト云フヤウナ形ニナッテ、ドウモ真相ヲ知ルニ付テ實際に甚ダ差支ヲ生ジマス、サウ云フ風ナ事情ガアツテ、事實發見ノ爲ニ、是非共管轄地外ニ職務ヲ行ハナケレバナラヌコトニナリマス、此十一條ヲ適用シマシテ、裁判ヲスルコトニナッテ居リマス、是ハ極メテ實際上必要ナ事ト考ヘテ居リマス、ソレカラ此十三條ノ方モ、裁判所ガ事件ヲ調べタ所ガ、ドウモ管轄權ガ無い、斯ウ云フヤウナ場合ニ、管轄權ガ無いト云フノデ、總テ出來ヌト云フコトニナリマス、例ヘバ重要ナル證據物ガ無クナッテシマウト云フヤウナ場合ニ手ヲ出スコトガ出來ヌ、サウスルト重大ナル犯罪者ヲ逸スルト云フコトガアリマス、サウ云フヤウナ場合ニハ、管轄權ガ無いト云フコトニナッテモ、一時之ヲ押收スルト云フヤウナコトガ、實際ニ必要ナ事デアラウト思ヒマス、サウ云フ事ヲ考ヘマシテ、此十三條ノ規定ガ設ケラレタ次第デアリマス、何レモ實際上無クテハナラヌ規定デアルト考ヘテ居リマス、之ヲ運用スルニ付キマシテハ、已ムヲ得ヌ場合、即チ事實發見ノ爲ニ、是非シナケレバナラヌ場合ニ限ルコトハ、當然デアルト考ヘマス

○横山(勝)委員 サウスルト改メテ第十一條ニ付テ承リマスガ、管轄區域外デ職分ヲ行フト云フコトハ、裁判ヲシテモ

差支ナイヤウニ見エケレドモ、サウ云フ意味デナクシテ、單ニ檢證スルヤウナ制限セラレタ場合デアルト云フコトデアリマス、其意味ハ了解シマシタガ、サウスルト、此文字デハ廣汎ニ失スルト思ヒマスガ、解釋上差支ハアリマセヌカ

○林政府委員 公判トカ、判決トカ云フコトハ、公判廷デ行フコトニ原則上定ッテ居リマス、十一條ハ斯ウ書イテアッテモ解釋上明白デアルト思ヒマス

○横山(勝)委員 第十三條ニ付テ承リマス、大正五年ニ發表セラレタル草案ニ依ル、十三條ニ該當スル規定ノ中ニ、豫審判事、受命判事、檢事、司法警察官ニ之ヲ準用スルト云フ規定ガアリマシタガ、ソレガ今度ハ檢事司法警察官ヲ省イテアリマス、是ハドウ云フ理由デアリマス

○林政府委員 第一章ハ裁判機關ニ付テノ規定デアリマシテ、檢事、司法警察官ニ關スルコトハ、後ノ搜查ノ章ニ譲リマシテ省キマシタ

○横山(勝)委員 分リマシタ、更ニ第十一條ニ付テ承リマス、裁判所ガ事實發見ノ爲ニ、管轄區域外ニ於テ職務ヲ行フ場合ニハ、管轄裁判所ニドウ云フ手續ヲスルノデスカ

○林政府委員 別ニ何等ノ手續ハ致シマセヌ

○横山(勝)委員 ソレハドウデアリマセウカ、浦和裁判所ノ管轄地ニ東京カラ檢事ガ來テ、檢證臨檢ヲ行フトキニハ、本來管轄權ヲ有スル浦和ノ地方裁判所ガ、職務怠慢デアルカノ如キ疑ヲ人民ノ側カラ受ケハシマイカ、又浦和地方裁判所ハ、職務上多少ノ危惧ノ念ヲ抱クコトガアリハシナカト思ヒマス、又十三條ノ規定モアリマス、裁判所カ來テ檢證ヲ行ハ、ソレカラ本來ノ管轄權ヲ有スル裁判所モ、其處ニ往ッテ仕事ヲスルコトガナイトハ限ラナイ、サウスルト極端ナ話カ知リマセヌガ、同一ノ場所ニ二ツノ裁判所ノ職員ガ職務ヲ行フトコトニナッテ、弊害ガ起ルト思ヒマスガ、其點ハ如何デスカ

○政府委員 サウ云フ場合ハ、御説ノ通り極端ナ事デアリマシテ、實際ノ上ニ於テハ、サウ云フ事ハ餘リナイト思ヒマス、管轄ノ問題ハ、國際間ヤ何カノ問題ト違ッテ、日本ノ通常裁判權ガ行ハレノデアリマシテ、便宜上區域ヲ立テ、其區域一定ノ關係アル事件ヲ管轄スル、斯ウ云フコトニ過ギナイノデアリマス、管轄外ニ出テ職務ヲ執ッテモ、決シテ管轄内ノ裁判所ノ權限ヲ侵スコトニモ何ニモナラナイノデアリマス、唯審理ノ上ニ必要デアルカラ、管轄外ノ場所ニ往ッテ仕事ヲスルニ過ギナイノデ、外ノ裁判所ノ管轄事件ヲ奪フ關係ニハナラナイノデアリマス、御心配ノ點ハ實際ニ於テ顧慮スル必要ハ無いト思ヒマス

○横山(勝)委員 私ノ心配スルヤウナ事ハ起リマス、マイ

ガ、東京地方裁判所ノ判事ガ、浦和地方裁判所ノ管轄内ニ往ッテ仕事ヲスル場合ニ、假ニ浦和地方裁判所ノ門前ノ人民ノ家ニ入ッテ檢證ヲヤルトシタラバ、東京地方裁判所ト浦和地方裁判所トノ間ニ於テ、ソコニ面白カラザル關係ヲ生ズルト思ヒマス、又門前デヤルトコトハナイトシテモ、五町カ六町離レタ所デアルトコトハアルト思ヒマス、サウ云フ場合ハ、一應浦和裁判所ニ通知スルヤウニシタガ、裁判事務ノ統一ヲ圖ル上ニ於テモ、職員ノ感情ノ上ヨリモ、極メテ適當デアルト考ヘマスガ、如何デスカ

○林政府委員 實際ノヤリ方トシテハ、其所在地ノ裁判所ノ或力ヲ藉ルコトハ無論アリマセウシ、又豫メ斯ウ云フ事ヲスルト云フ話モ致シマセウガ、併シ職務ヲ行フ場所ハ、必ジモ裁判所所在地トハ限リマセヌ、離レテ居ル所モアリマス、又臨檢ニ限ラズ、證人ガ病氣デ寢テ居ッテ、直接ニ訊問シナケレバ、事實ノ真相ガ分ラナイ場合ニ、其證人ノ訊問ヲスルコトガテルト思ヒマス、サウ云フ場合ニ、一々法律上管轄地ノ裁判所ニ通知スルコトハ不便デアル、又其必要モ無いト思ヒマス、又自分ノ管轄内デ他ノ管轄外ノ裁判所ノ判事ガ職務ヲ執ッテモ、感情ヲ害スル様ノコトハナイト思ヒマス

○横山(勝)委員 裁判所内部ノ關係ハ圓滿ニ往クカ知リマセヌガ、人民ノ側カラモ御考慮ヲ煩ハシマス、管轄區域外ニ於テ起タ場合ハ、能ク私モ經驗ハアリマセヌガ、管轄内ニ於テモ實際アル事デアリマス、例ヘバ東京地方裁判所ノ判事ガ、本所深川ニ行ッテ仕事ヲスルト云フ場合ニハ、大體警察署ニ一應通知シテ、警察署カラソレノ手配ヲシテ貰フト云フ事ニ實際上ナッテ居リマス、其場合ニ今日ハ暴風雨デアッテ自然裁判官ガ出張スルコトガ止メニナッテ、或ハ訴訟關係人ガ出張スルコトガ困難デアルト云フノデ、延期ニナッテト云フヤウナ場合ニ、人民ノ方デハ裁判官ガ來ルモノト思ッテ、其場所ニ行ッテ居ルケレドモ、今云フヤウニ連絡ノ途ガナイ爲ニ、連絡スルコトガナイ爲ニ、人民ハ何處ニ行ッテ聞ケバ宜イカ、五町ガ三町ナラ本然ノ管轄ニ行ッテ聞クコトモ出來マスガ、今林サンノヤウニ、裁判所ノ所在地カラ五里モ三里モ山奥ニ、裁判ガ檢證ニ行クコトニナッテ居ッタガ、裁判所ノ都合デ行ケナイト云フ場合ニハ、其近クノ裁判所デ聞クコトカ、或ハ近クノ警察署ニ就テ聞クコトガ、人民トシテハ利益デモアリマス、ソレハ先例ガ少ナイト云フカ知レマセヌガ、元來管轄區域外ニ於テ職務ヲ行フトコトガ少イノモアリマス、其場合ニ今言フヤウナ事情ガ來ルト、官吏ノ人ノ關係ノミデナクシテ、人民ノ側カラモ非常ニ便利ト思ヒマス、即チ浦和地方裁判所ノ管轄ニ行ッテ仕事ヲスル場合ニ、今日ハ時間ニナッテモ裁判官ガ來ナイト云フ時ニ、浦和

裁判所ニ行テ聞ク、今日ハ斯ウタ々云フ關係デ来ナイト云フコトニナツタ、人民ノ側ニ於テハ非常ニ便利ト思ヒマス、私共是ハ實際ニ經驗致シマス、民刑ニ通ジテ裁判官ガ御出デニナラナイデ、ドウシテ宜カラウト、二時間三時間待ツコトガ屢々アル、ソレハ裁判官ニ於テモアル、人民ガ来ナイデヤッデモ宜イ、證據調デモ人民ノ来ノヲ待ツト云フコトデ、所ガ電車ガ不通ニナツタカ、汽車ニ故障ガ出来タカ云フコトデ、サウ云フコトガアリマス、今日管轄權ヲ有セザル裁判所ノ管轄内デ、他ノ裁判所ノ職員ガ職務ヲ行フ場合ハ、一應通知シテ、サウシテ人民ノ便利ヲ圖ルト云フコトガ、私ハ人民ノ側カラ見テ必要ト思ヒマス、サウ云フ風ナ事ガアッデモ、尙必要ナシト云フ御論デアリマスカ

○林政府委員 實際ノ事實ノ上ニ於テハ、關係者ノ便宜ヲ圖リマシテ、適當ナル處置ヲ取ルコトハ至極宜イト思ヒマス、法律ノ上ニ於テハ、例ヘバ檢證ヲスル時ニハ、立會權ヲ持ツテ居ル者ハ澤山アリマス、是ニ豫メ通知シマス、若シ變更スレバ、變更シタト云フコトヲ立會權ヲ有スル其人ニ通知スルガ當然ト思ヒマス、今ノ舉ゲラレタ例ノ場合ニハ、急ニ差支ガアルテ行ハレナイト云フ場合ハ、是ハ其地ノ裁判所ニ通知スルコト云フコトハ足りナイト思ヒマス、矢張立會權ヲ有ツテ居ル者ニ、電報ナリ其他ノ方法デ通知スル、斯ウ云フコトニナルノガ當然デアラウト思ヒマス、隨テ法律ノ條文トシテハ之十分デ、併シ運用ノ上ニ於テ實際適當ニヤルト云フコトハ、是ハ勿論ノコトト考ヘマス

○横山(勝)委員 次ニ第十二條ニ付テ御尋ネシマスガ、第十二條ハ「訴訟手續ハ管轄權ノ理由ニ因リ其ノ效力ヲ失ハス」斯ウ云フ原則ガ立テラレテ居リマスカラ、自然管轄權ノ裁判所ガ仕事ヲシテモ、手續モ有效ニナルシ、隨テ作ラレタル書類モ之ヲ有效ニ使用スルコトガ出来ルト云フ原則デアルト思ヒマスガ、是ハ第十三條ノ如ク、管轄權ヲ有セザルトキト雖モ、急速ヲ要スル場合デアアルカラト云フコトデ、許サレタル規定ニ基キテ、書類ガ有效トナリ、手續ガ有效トナルト云フコトハ、是ハ無論デアリマスガ、併ナガラ訴訟關係人ノ不明ニ依ッテ、訴訟手續ガ管轄權デアアル、管轄ニ關スル規定ヲ蹂躪シテ爲サレタル訴訟手續デアリマスカラ、違法デアルト云フ理由デ、他ノ裁判所ニ移送サレ、若クハ其他ノ方法デ事件ガ進行スルト云フ場合デアアルニ拘ラズ、其效力ヲ失ハズトシテ、管轄權ノ裁判所デ作ツタ手續ガ有效トナリ、書類ガ有效トナルト云フコトハ、是ハ如何ニモ裁判官ノ權能ヲ過大ニ規定シタモノデアアル、私ハ裁判官ノ行為ガ專横ニナルノ虞ガアルト思ヒマス、管轄權ニ於テモドウカナルト云フコトデ、ドンノ仕事ヲスルト云フコトニナレバ、殆ド管

轄ニ關スル規定ハ必要ガナクナッテ仕舞フ、是ハ何カ例外的ニ斯ウ云フ規定ヲ作ルコトガ必要カト思ヒマスガ、違法ナ仕事シテモ、尙ホソレガ效力ガアルト云フ原則ヲ立テルト云フコトハ、法律ノ適用ヲ誤ラシムルノミナラズ、甚ダ本末ヲ顛倒シタ規定デナイカト思ヒマス、要スルニ例外トスルニハ異存ハアリマセス、即チ相當ナル制限ヲ設ケテ、此效力ヲ認メル必要ハアルノデアリマスガ、原則ヲ立テルト云フコトハドウデアラウカト思ヒマス、此立法ノ趣旨ヲ承リタイト思ヒマス

○林政府委員 訴訟手續ガ、其訴訟手續ニ關スル法則ニ反シテ居ラス以上ハ、單ニ裁判所ノ管轄ガ違タト云フ理由デ、其效力ヲ否定スルト云フコトハ、適當デナイト思ヒマス、現行法ニハ斯ウ云フ明文ハアリマセスガ、解釋ハサウナデ居リマス、判決例デモ定テ居リマス、ソレカラ又現行法ニハ、時効中斷ノヤウナ場合ニ、特ニ是同ジヤウナ規定ヲ設ケテアリマス、併シ本案ニ於テハ、此處ニ經メテソレヲ書クヤウニナリマシタノデ、要スルニ第十二條ハ現行法ヲ少シモ變更シタ次第デナイ、唯之ヲ明文ニ現ハシテ、現行法ノ過ギナイノデアリマス、實際ノ經驗カラ考ヘマシテ、現行法ノ解釋トシテヤッテ居ル通りニシマシテ、少シモ弊ヲ認メテ居リマセス、今ノ御心配ノヤウナ事ハアルマイト考ヘマス

○横山(勝)委員 十二條ニ付テ更ニ質問ヲ致シマスガ、現行法ノ解釋ハサウナデ居ルト云フコトデスガ、ソレハ大審院アリテサウ極メテ居ルトハ私モ知ツテ居リマスガ、併シ人民ノ側ニ於テハ頗ル不満デアアル、サウ云フ見方ノ手續ニ依ッテ出来タ書類ダケガ有效ニナルト云フコトハ、違法デアルト云フコトハ、是ハ一審二審ヲ通ジテ、大審院ニ於テモ論争サレタコロデアリマス、是ハ現行法ニ於テモ大ニ疑ガアツタト思ヒマス、大審院ノ判例ハ記憶シマセスガ、ソレデアリマスカラ、今迄現行法ヲ變更セスト云フ意味ハ當ラスト思ヒマス、ノミナラズ苟モ裁判所ノ管轄ニ關スル規定ヲ五箇條モ六箇條モ設ケテ、サウシテ裁判所ノ職員ノ權能ヲ制限スル必要ガアルト云フコトハ、其手續ハ管轄權デモ、裁判官ガ此手續ヲ有效ニスルヤウナ場合ガアルノデアアル、其處デ出来タモノガ依然ト效力ヲ有スルト云フコトハ、管轄ノ規定ヲ設ケタ精神ニ私ハ悖ルト思ヒマス、先刻十一條ノ規定ノ場合ニ質問ヲシマシタ通り、管轄區域外ニ於テモ仕事ガ出来ルト云フ明文ガアル、管轄權ヲ有セザル場合ニモレテ居ルト云フコトハ御説明ノ通りデ、ソコデ又管轄權ニアッテハ、違法ノ場合ニ於テモ尙ホ書類ニ效力ガアルト云フコトニナレバ、管轄ト云フコトハ全クソレハ目分量デ仕事ヲスルト云フヤウナモノデ、何モ法律デ仰ヤシク規定ヲ設

ケル必要ガ無イト云フコトニマデ疑ハレルノデアリマス、要スルニ是ハ何カ制限ヲ設ケテ、斯ウ云フ場合ニ限テ有效デアルト云フヤウナコトニシナイト云フコト、管轄ノ規定ヲ設ケタ趣旨ト云フモノハ、全然滅却スルヤウニ考ヘル、要スルニ現行法ト毫モ趣旨ガ違ハスト云フ意味ノ御辯明ハ、私之ヲ諒解スルコトハ出来ナイノミナラズ、管轄ノ規定ヲ緩和スルト云フ趣旨ハ、前刻ノ御説明ニ満足致シテ居リマスケレドモ、ナンデモカンデモ違法デモ、管轄外デモ、總テ有效ニスルト云フコトハ、ドウモ諒解スルコトハ出来ナイ、再應此點ノ御説明ヲ願ヒタイ

○林政府委員 十二條ノ實際ノ主ナル適用ハ、書類ノ證據ガ如何ト云フコトニナルト思フノデアリマス、其書類ノ證據力ニ付テ考ヘテ見マスルト、例ヘバ東京地方裁判所デ起訴ヲ受ケテ、證人ノ訊問ナドヲシタ所ガ、段々調べテ見ルト横濱地方裁判所ノ管轄ニ屬スル、斯ウ云フ場合デアリマス、ソコデ横濱地方裁判所ヘ檢事ハ更ニ訴フスル、此場合ニ前ノ證人訊問調書ガ效力ガアルト云フヤウナコトニ關係スル問題ト思フデアリマス、此場合ニ證人訊問調書ト云フモノハ效力ハナイ、直接ニ訊問シナケレバイカスト云フ原則ヲ取ル立法ニ於テハ別デアリマスケレドモ、適法ニ訊問シタ證人ノ調書ハ效力ガアルト云フコトニ、本法ニ於テハ認メテ居リマス、東京地方裁判所デ適法ニ證人ヲ訊問シタ一體ガ横濱ノ管轄デアッタノデアアルカラ、其訊問調書ト云フモノモ全ク效力ガ無イト云フコトニ解スルノハ、窮屈デアラウト思ヒマス、要スルニ東京地方裁判所モ、横濱地方裁判所モ、同ジ日本ノ通常裁判權ヲ行使スル同ジ組織、同ジ資格ノアル者ガ當ツテ居ル、手續モ全然同様デアリマス、ドウモ斯ウ云フ場合ニ證據力ヲ認メスト云フコトハ、適當デナイト思ヒマス、ソレデハ此處デ宜シカラウト考ヘテ居リマス

○横山(勝)委員 尙ホ關聯シテ反問カラ聞キマスガ、第十三條ノ規定ニ依ッテ、管轄權ヲ有セザル場合デモ、急速ヲ要スル場合ハ、今ノ御説明ノ通り、其書面ガ有效デアルト云フコトニ異論ハアリマセスケレドモ、急速ヲ要セザル場合、此事件ハ管轄權デアアル、特ニ急速ヲ要スル事件デモナイ、ケレドモ檢事カ要求スルトカ、裁判官ガ尙ホ進ンデ取調ベラサルト云フ場合ガアルトスル事ヲ想像シナケレバナラス、サウスルト先刻來展々申シマス通り、裁判官ガ管轄ニ關スル規定ヲ濫用シテ、サウシテ專横ニ流レ、自分ノ非ヲ遂ゲルト云フ弊風ヲ裁判官ニ貽シハセスカト考ヘル、素ヨリ管轄權デアアルト云フコトガ分ツテ居テ、サウシテ普通管轄權ノ裁判ヲスルノダト云フコトガ分ツ場合ニ、多クノ場合ニ於テハ、裁判官ガ之ニ關スル手續ヲスルダラウト思ヒマス

ケレドモ、併ナガラ又其非ヲ知リツ、何處マデモ惡辣ナル違法ノ手續ヲスル者ガナシトモ限ラナイ、本案十二條ノ原則ガ、必シモ惡イトハ申シメスケレドモ、裁判官ガ裁判所ノ職員ガ惡事ト知リツ、即チ違法ナリト知リツ、尙且ツ訴訟手續ヲ進行シテモ宜シト云フコトヲ反面ニ許シタト云フコトニナルト思フ、急速ヲ要スル場合ト云フ制限ヲ置イテ、管轄權ヲ有セザル場合ニハ、裁判所ノ職員ノ職權ヲ認メルケレドモ、一面ニ於テ急速ヲ要セズシテ管轄權ガ無イニモ拘ラズ、尙ホ裁判官ガ仕事ヲシテモ宜イト云フ原則ヲ定メルト、ドシナ違法ナ事ヲシテモ宜イト云フコトニナリ、斯ウ云フ場合ニ、民間ノ吾々ガ屢々申シマス人權蹂躪ナドト云フコトニナッテ來ル、急速ヲ要スル場合ハ、是ハ十三條ノ規定ハ已ムヲ得マセヌケレドモ、急速ヲ要セザル場合、現ニ管轄權ト云フコトガ分ッテ居ルノニ、裁判官ガ違法ヲスルト云フコトガ、吾々民間ニ人權蹂躪ノ問題ヲ起スノデアリマス、又全ク人權蹂躪ナノデス、サウスレバ立法者ハ斯ウ云フ違法ノ事ヲシテモ宜シト云フコトノ規定ヲ設ケテ、裁判官ニ其非ヲ爲サシムルノ危險ガアルカラシテ、一方ニ於テハ訓示規定アルト寧ろ深切ナルコトヲ要スルカ、名譽ヲ維持スルコトヲ要スルカ云フヤウナ、誠ニ良風美俗ニ關スル道德的規定ヲ設ケナガラデスナ、一面ニ於テ惡事ヲ爲スモ差支ナイト云フ規定ヲ置クト云フコトハ、本案ノ性質ニ照シテ見テ、非常ナ瑕瑾アルト思ヒマス尙ホソレデモ之ヲ御維持ナサル御積リデアアルカ、ドウカ

○林政府委員 十二條ノ規定ハ、管轄權デアルト云フコトガ分ッテ居ルノニ手續ヲシテ、其手續ガ效力ガアルト云フ意味デハアリマス、管轄權ガアル積リテ段々手續ヲ進行シテ、後ニナッテ管轄權ト云フコトガ分ッテ居ル場合ニ、前ノ手續ハ效力ガアル、斯ウ云フ意味ナノデアリマス、管轄權ガ無イト云フコトガ分ッテ居ル場合ニ、爲スベキ處置ニ就テノ規定ハ十三條ナド、今御尋ノヤウナ關係ニハナッテ居ラスト思フノデアリマス、殊ニ十三條ニ於テハ、急速ヲ要スル場合ニ於テノミ之ヲ爲スコトガ出來ルノデアリマス、急速ヲ要セザルノニ爲スコト云フコトニナレバ、明ニ違法デアリマス、其手續ト云フモノガ效力ガ無イ、斯ウ云フコトニナルノハ當然デアルト思ヒマス、御尋ノ様ナ場合ニスルコトヲ許ス意味デハ全クナイノデアリマス

○横山(勝)委員 意味ハデス、今政府委員ノ御説ノ通り了解シテ居リマス、サウ云フ非道德的ナ事ヲ看過スル意味デ出來テ居ラスコトハ了承致シマス、事實アッタラドウシマス、一面ニ於テ管轄權ガ無イト云フコトハ、事件ヲ見レバ分ル場合ガアル、即チ第十三條ニ規定シテアル如キ管轄權ノ無イト云フコトガ分ッテ居ル場合、サウ云フ特殊ノ事情ガアル

カラ、其處分權ヲ許シテ居ッテ、打棄ッテ置イテモ宜シイ事件、他ノ裁判所ニ移送シテモ宜イ事件デアアルコトヲ知リツ、尙ホ裁判官ガ違法ト知リナガラヤッタラドウシマス、カ、上告ニスルカ、無効トスルコトガ出來ルノデアリマス、カ

○林政府委員 若シサウ云フ場合ガアリトスレバ、其手續ハ違法デアリマス、カ、效力ハ無イト思ヒマス、ソレカラ又一面ニ於テ、確ニ職權ノ濫用デアリマス、カ、職務上ノ責任ハ免レヌト思ヒマス

○横山(勝)委員 其今ノ管轄權ヲ有セズシテ、急速ヲ要セザル場合ト云フコトガ分ッテ居ル場合ニ、尙ホ進ンデ手續ヲシタラバ、違法デアアルト云フ御話デアリマス、ソレハ第十二條ノ規定ノ解釋カラ來ルノデスカ

○林政府委員 十三條ノ解釋カラ參ッテ居リマス

○横山(勝)委員 此程度デ、不滿デハアリマス、ガ止メテ置キマス

○横山(金)委員 十二條ニ付テ一寸御尋ラ致シテ置キマス、此管轄權ノ理由ニ依ッテ效力ヲ失ハヌト云フコトハ、事物ノ管轄權モ含ムノデスカ

○林政府委員 サウ云フコトニナリマス

○横山(金)委員 若シサウシマス、事物ノ管轄ノ場合デモ下級裁判所ノ管轄スベキモノヲ上級裁判所ガ管轄ヲシテ間違ッタト云フ時ニハドウデモ宜イノデスカ、若シ上級裁判所ノ管轄ニ屬スベキモノヲ下級裁判所ガ扱ッタト云フ場合デモ、所謂手續ナドノ上ニ差ガアッテモ、比較的下級裁判所ノ方ガ簡易ナドデアリマス、カ、其場合デモ例外ト見テ、ソレデ宜イト云フ御考ヘデアリマス、カ、ソレトモ何カ其間ニ考慮ヲ廻ラス必要ハナイノデアリマス、カ

○林政府委員 事物ノ管轄ノ違フ場合ニ於テハ、多少手續ヲ異ニシマシテ、判決ヲスルコトガアリマス、カ、併ナガラ證據調等ニ付テハ、地方裁判所デアリマシタノデモ、區裁判所デアリマス、カ、法則ニ變リハナイ證人ヲ訊問スル場合ハ、地方裁判所、區裁判所、控訴院皆ナ同ジデアリマス、事物管轄ガ違フカラト云フテ、調ベタ證人ノ訊問調書ノ效力ガ無イト云フコトニスル理由ハナイヤウニ考ヘテ居リマス

○横山(金)委員 併シ事物管轄ノ違フ爲ニ、下級ト上級デハ、構成ノ場合ニ差ガアルヤウニ考ヘマス、カ

○林政府委員 構成ノ上ニ差ガアリマス、カ、其事件ノ判斷ニ付テハ、事物ノ管轄ト云フコトハ嚴守スル必要ガアルト考ヘマス、併ナガラ證據調ト云フコトニ付テハ、別ニ違ハアルマイト思ヒマス、例ヘバ地方裁判所デアリマシタノ訊問致シマス、カ、受命判事ノ訊問スルコトモアリ、受託判事ノ訊問スルコトモアリマス、詰リ訊問ノ手續ハ少シモ違

ッテ居リマス、サウスルト區裁判所ノ判事ガ法律ニ依ッテ訊問シタル證據デアリマス、カ、矢張ソレハ效力ガアル、斯ウ云フ次第デ、事實判斷ノ材料トスルコトノ出來ル點ニ付テハ、格別違ハナイト考ヘマス

○横山(金)委員 此場合先刻ノ一章ノ一條ノ「被告人ノ住所居所若クハ現在地ニ依ル」ト云フノハ、現行法ノ二十六條ノ所在地ト云フノヲ悉ク書分ケラレタモノデアラウト思フ例ヘテ見マス、カ、罪ヲ犯シタリトシテ、裁判所ニ事件ガ繫屬致シテ居ル、其事件ガ無罪ニナッテ、監獄ノ門ヲ出マス、カ、直グ他ノ事件デ補縛サレタト云フヤウナ犯罪者ガアル、從來ハ矢張二十六條ノ被告人ノ所在地ト云フ文字ニ依ッテ、管轄權アリトシテ扱ハレテ居、カ、サウスレバ、サウスルト矢張現行刑事訴訟法ノ如ク、被告人ノ所在地ト御書キナッテモ、住所居所、若クハ現在地ト御書分ケニナル必要ハナイヤウニ思ヒマス、カ、從來ノ經過デハ書方ガ足ラナイカラ、ソレヲ補フ意味デ、此規定ガ置カレタノデアリマス、カ、又若シ從來スノ如キ場合ニ被告人ノ所在地ト云フモノヲ區別セヌト、遺憾ノ點ガアッテ、カ、デアリマス、カ

○林政府委員 本案ノ現在地ト云ヒマス、カ、現行法ノ所在地ニ當リマス、本案ニ於テ、其以外ニ住所居所ヲ管轄ノ標準トシテ附加ヘタ次第デアリマス

○上島委員 私モ一寸念ノ爲ニ御尋ネシテ置キタイノデアリマス、カ、十一條ノ「管轄區域外ニ於テ職務ヲ云フ事」ヲ得ト云フコトガアリマス、カ、司法警察官吏ノ執行スル第一百條ノ勾引狀、勾留狀デス、カ、管轄區域外ニ於テ職務ヲ行フ場合ニ、勾留狀ヲ發シ、勾引狀ヲ發スル場合ハ、其管轄區域外ニ於テモ、檢事ノ手ヲ經テ直接ニ警察官吏ヲ指揮シテ出來ルノダラウト思フノデスカ、ソレガ一ツト、ソレカラモウ一ツ、若シ此様ナ事實ガ發生シタ場合ニハ、其指揮ヲ受ケタル所ノ司法警察官吏ハ、自己ノ管轄區域デアリマス、カ、ドウ云フ受命判事デアリマス、カ、知ラナイヤウナ者ガ突然出テ、勾引狀勾引狀ノ指揮ヲスル事ニナル、法律上デアリマス、カ、實際上ニ於テ其間ニ意思ノ齟齬等ガ出來テ、急速ヲ要スル場合ニ、非常ニ困ルヤウナ事ガアリハシナイカト云フ杞憂ヲ懷クノデアリマス、カ、若シサウ云フ場合ハ、今横山君ノ言ハレタヤウナ、豫メ急速ヲ要セザル場合ハ、其管轄ノ裁判所判事ガ勾引狀勾留狀ヲ發スルコト云フ事ガ、必要デアリマス、カ、實際ノ場合ハサウ云フ弊害ハ防ゲルト思ヒマス、カ、政府ノ御考ヲ伺ヒマス

○林政府委員 只今ノ御尋ノ勾引狀勾引狀ノ發付ト云フ事デアリマス、カ、是ハ十一條デハ豫想シテ居ラスコトデアリト考ヘマス、カ、十一條ハ「事實發見ノ爲必要アルトキハ」トアッテ、隨テハ證據ノ問題ニ關係スル事デアリマス、本案ニ於

テ、隨テハ證據ノ問題ニ關係スル事デアリマス、本案ニ於

テ、隨テハ證據ノ問題ニ關係スル事デアリマス、本案ニ於

テ、隨テハ證據ノ問題ニ關係スル事デアリマス、本案ニ於

テ、隨テハ證據ノ問題ニ關係スル事デアリマス、本案ニ於

テ、隨テハ證據ノ問題ニ關係スル事デアリマス、本案ニ於

テ、隨テハ證據ノ問題ニ關係スル事デアリマス、本案ニ於

テハ、御承知ノ通り被告人ト云フモノハ當事者タル地位ヲ十分ニ認メラレマシテ、被告人ハ裁判所ノ訊問ニ對シテ答ヘル義務ガナイト云フ原則ヲ採クノデアリマス、從テ此事實發見ノ爲ト云フコトハ、主トシテ證據ノ問題ニ係ルテ來ルコトデアルト思ヒマス、此條文ヲ適用シテ、管轄區域外ニ出テ勾引狀ヲ發スルヤウナコトハ、先ヅ豫想シテ居リマセヌ、ソレハサウ致シマシテ、此條文ヲ適用スル上ニ、實際上條文ニ定メタ以外ニ、色々ノ方法ヲ採ル、斯ウ云フ必要ハアルカモ知レマセヌ、ソレ等ノ點ニ付テハ、十分遺漏ナク處置スル考デアリマス

○上島委員 今ノ林政府委員ノ御説明デ分リマシタガ、併シ如何デゴザイマセウ、職務ヲ行フコトヲ得ト云フ文字ハ、勾引狀勾留狀ノ令狀ノ發付ヲ包含セナイト云フ意味ヲ斷言スル譯デセウカ、無論ニハ解釋上ニ影響ヲ及ボスト思ヒマスガ、其點ヲ……

○林政府委員 私ハ斷言シテ差支ナカラウト思ヒマス、ソレハ後ノ方ノ規定ニ現ハレテアリマス、管轄違フ言渡ス豫審決定ナリ、判決ナリヲスル場合ニ、特ニ勾留狀ガ出セルト云フ判定モアリマス、若シ此處ニアル事實發見ノ爲ト云フ中ニ、勾引ヤ勾留ヲスル事柄モ入ルコトニナルト、後ノ方ノ規定ハ無用ニナリマス、矢張此事實發見ノ爲ト云フハ、文字通りニ見マシテ、事實發見ノ材料ヲ調べル爲ト、斯ウ云フ意味ニ見テ宜シカラウト思ヒマス

○上島委員 其御説明モ能ク分リマシタ、所デ是ガ今日此立法ヲスルト云フ上カラ云フト、既ニ管轄區域外ニ於テ職務ヲ行フコトヲ許ス以上ハ、管轄區域外ノ處デ職務ヲ行フノハ、非常ニ緊急ヲ要スル場合ニ、是非勾留狀勾引狀ヲ發付シナケレバナラスト云フ場合ニ、之ヲ禁止スルト云フコトハ如何デセウ、ソレハ事實必要ガアル、例ヘバ檢證トカ何トカデ、是非勾引狀勾留狀ヲ發付シナケレバナラズ場合ニ、後ニ至テハ執行ガ出來スト云フ場合ガ無キニシモアラズト思フ、サウ云フ場合ヲ豫想シテ置カスト、九叙ノ功ヲ一簣ニ缺クト云フヤウナ處ガアリハシナイカ

○林政府委員 絕對ニサウ云フ處ハ無イト云フコトモ斷言シ兼ねルノデアリマスガ、先ヅサウ云フ事ハアルマイト思フ、勾引狀勾留狀ハ、矢張原則通りニヤ、テ差支ナカラウカト考ヘマス

○上島委員 是ハ別ニ私カラ修正ノ意見ヲ申上ゲル譯デハナイカ、實際ドウモ事實發見ノ爲ニ搜查檢證等ヲスルコトハ再々アリマス、此搜查檢證ノ場合ニ於テ、勾留狀勾引狀ヲ出ス必要ヲ感ズル必要ハ、實際ニ多々アリマス、吾々デモサウ云フ經驗ヲ多々持ッテ居リマスカラ、管轄區域外ニ於テ事實發見ノ際ニ處分ヲスル必要アル場合ハ、勾引狀勾留狀

ヲ發付ヲ許スコトガ當然ト思フ、其點ハ十分能ク御考慮ヲ願ヒタイト思フ、ソレダケノコトデス

○横山(勝)委員 此十三條ニ事實發見ノ爲メトアリマスガ、證據湮滅ノ虞アルト云フヤウナ場合ハ、之ヲ含ムノデスカ、ドウ云フ風ニナリマスガ、ソレヲ承ハリタイ

○林政府委員 事實ヲ明カニスル必要ガアル場合ハ、矢張事實發見ノ爲メト云フ中ニ這入ルト思ヒマス、證據湮滅ノ虞アル場合ニ之ヲ差押ヘルト云フコトハ、包含スルコト、思ヒマス

○横山(勝)委員 宜シウゴザイマス

○鶴澤委員 ソレデハ十四條カラハ午後ニ致シマセウ——午後ハ一時半カラ

午後零時二十一分休憩

午後一時五十九分開議

○鶴澤委員長 ソレデハ開會致シマス、午前ニ引續キマシテ、第十四條——別ニアリマセヌカ——第十五條——第十五條ガ無ケレバ第十六條是ハ一寸伺ヒマスガ、第十六條ハ現行法ト大分違ッテ居リマスガ

○林政府委員 内容ハ格別變リハアリマセヌ、唯ダ此所ヘ構成法ニアルノト刑事訴訟法ニアルノト經メタ譯デアリマス

○鶴澤委員長 第十六條モアリマセヌカ——ソレデハ第十七條、是モ同ジ譯デスカ——第十八條

○上島委員 是ハ一寸意味ヲ御尋シテ置キタイ、此第十八條ニ「管轄裁判所ニ差出スヘシ」トアリマス、此管轄裁判所ハ、指定又ハ移轉ノ請求ヲ受ケテ、之ノ決定ヲ與ヘル所ノ裁判所ヲ指スヤウニ私ハ考ヘテ居リマス、其前條ニ「管轄裁判所ニ於テ」ト云フ十七條ノ管轄裁判所ハ、指定又ハ移轉ノ請求以前ニ於テ、法律ノ結果當然管轄權ヲ有スル裁判所ノヤウニ考ヘラレマス、斯ウ云フ風ニ二様ニ此管轄裁判所ト云フコトノ意味ガ含ンデ居ルノデアッテ、能ク見レバ其事ガ分ルヤウニ考ヘテ居ルノデスカ、モウ少シ明瞭ニスル爲ニ、前ノ管轄ノ指定又ハ移轉ノ請求前ニ於ケル管轄裁判所ト、其請求ヲ受ケテ之ヲ決定スル管轄裁判所ト此二ツノ文字ヲ使分ケルヤウニシタラ便利デアラウト思ヒマスガ、其邊ノ御考慮ハ、定メテ起草ノ時ニアッタラウト思ヒマスガ如何デスカ

○林政府委員 其等ノ點モ實ハ考ヘタノデアリマスガドウモ巧イ言葉ガアリマセヌ、是デ開達ハ起ルマイ、斯ウ云フノデ此處ニ落付キマシタ、ドウモ巧イ言葉ハアリマセヌ

○上島委員 意味ハサウ云フノデアリマスガ

○林政府委員 意味ハ疑ナイト思ヒマス

○鶴澤委員長 次ニ第十九條、是モ無イデセウカ——第二十條——第二十一條——第二十二條——第二十三條——第二章裁判所職員ノ除斥忌避及回避第二十四條

○上島委員 此第三號ニ「四親等内ノ血族」ト云フコトガアル、民法ノ親族ノ規定ヲ特ニ此刑事訴訟法デハ變更シテ居ルノデスカ、私共ノ考デハ同ジ事ナラバ根本法タル民法ノ親族關係ノ規定ヲ變更セズシテ、其儘ニ適用シタラヨサ、ウニ思フノデアリマスガ、特ニ此二親等ダケヲ減ラサレタト云フ理由ヲ伺ヒタイ

○林政府委員 本條ハ法律ニ依ッテ、當然職務ノ執行カラケラレル場合デアリマスカラ、此原因ト云フモノハ、特ニ著シイ場合ニ制限スル必要ガアルト思ヒマス、ソレデ五等親デモ、六等親デモ、親類ニハ無論違ナイノデアリマスガ、併シ縁故ガ餘程遠クナッテ居リマスカラ、ソレダケノ關係ガアル爲ニ、必然的ニ職務ノ執行カラ脱退シナケレバナラスト云フノハ、實際ノ事情ニ適シナイト云フ考ヘカラ、此程度ニ止メタダケノ趣意デアリマス、是ハ證人ヤ何カノ所デモ同様ナ關係ニナッテ居リマス

○鶴澤政府委員 第二十五條

○横山(勝)委員 二十五條ノ「判事職務ノ執行ヨリ除斥セラルベキトキ又ハ偏頗ノ裁判ヲ爲ス虞アルトキハ檢事被告人又ハ私訴當事者之ヲ忌避スルコトヲ得」ト云フ規定デアリマス、是ハ大體現行法ト其意味ガ同ジデアルト云フ事ハ、前回ドナタカカラハ質問ニ對シテ、御答辯デ明瞭デアリマスガ「偏頗ノ裁判ヲ爲ス虞アル」トシテ、是ハ洵ニ文字ハ明瞭デアリマスガ、併ナガラ之ヲ事實ニ於テ、吾々ノミナラズ裁判所ノ職員ノ人々ガ實際ノ運用ニ當ラレテ、最も是ハ意味ノ分ラヌ文字デアリマス、一讀甚ダ明瞭デアッテ、是ガ實際ノ運用ニ當ラレト、果シテ如何ナル場合ハ偏頗ノ裁判ヲ爲ス虞ガアル場合ト見ルカト云フコトガ、常ニ問題デアアル、ソレデ屢々、是ハ質問ニモアッタラウト思ヒマスシ、又一度ハ私モ聽イテ居リマスガ、偏頗ノ裁判ヲ爲ス虞アルトキト云フノハ、此刑事訴訟法實施以來約三十年ノ間、未ダ曾テ裁判ニ現レタコトノ無イ事項デアリマス、併ナガラ被告並ニ辯護人ノ側ニ於テハ、之ヲ屢々、使用シタル文字デアッテ、現實ノ事案ニ觸レテ、此裁判官ハ偏頗ノ裁判ヲ爲ス虞アルモノデアルトシテ現行法ノ四十一條ニ依ッテ、忌避ノ申立ヲ爲シタルコトハ屢々アルノデアリマス、尤モ此偏頗ノ裁判ヲ爲ス虞ガアルト云フコトニ依ッテ、此申請ヲ爲シタル事ガ、悉ク被告並ニ辯護人ノ考ガ、正當デアッタトモ私ハ中兼ル場合ガアル、現ニ爲シタル忌避ノ申立ガ、故意ニ裁判ヲ遅延セシムルノ目的ヲ以テ爲サレタルモノデアルトシテ、懲戒裁判所ノ裁判ヲ受ケタ例モアルヤウナ次第デアリマス、

併ナガラ全國ノ各裁判所ヲ通ジテ、多數ノ被告多數ノ辯護人カラ、屢々、偏頗ノ裁判ヲ爲ス虞アル場合ニ忌避ノ申請ヲ爲シタルニ拘ラズ、未ダ會テ一タビモ裁判所ノ容ル、所トナラナイト云フコトハ、立法ヲ爲サル人々カラ御考ニナリマシテ、斯ウ云フ場合ハアルト云フコトヲ想像サレデ、立法ヲセラル、デアラウト考ヘマス、現行法然リ、現行法ノ四十一條ノ規定ヲ承ケテ作ラレタル本案二十五條ノ規定モ、亦同一ノ趣旨デアラウト思フ、然ルニ斯ノ如キ規定ヲ置イテ、被告人竝ニ辯護人ノ側ニ於テ屢々、申立テルニ拘ラズ、未ダ會テ當局ノ容ル、所トナラナイ、茲ニ私ハ此法案ノ文字ニ付テ、冒頭ニ中上ゲマシタ如ク、一讀甚ダ明瞭デアッテ、之ガ運用ノ術ニ當レバ、最モ不可解ノ文字デアルト云フノハソコデアリマス、若シ前會ノ政府委員ノ御答辯ノ如ク、恐クハ今日以後ニ偏頗ノ裁判ヲ爲スヤウナ裁判官ハ絕對ニ無イト假定ニナレバ、本案ハ宜シク全部削除シテ然ルベキモノデアリ、其前條ノ除斥ノ原因ヲ明確ニ規定スルト云フコトニ依ッテ十分デアリマス、併ナガラ裁判所ノ多キ、又裁判官ノ多キ、ドウモ吾々常識カラ考ヘテ見テ、偏頗ノ裁判ヲ爲ス虞アリト認ムル場合ガ屢々アル、私ガ此四十一條ノ規定ニ依ッテ、即チ現行法ノ規定ニ依ッテ、忌避ノ裁判ヲ受ケタル實例ヲ、記憶致シテ居ルノ中上ゲレバ、會テ東京控訴院ニ於テ、私ガ擔當ノ事件ガ開廷ニナルト、ソレデ東京區裁判所ノ呼出ヲ受ケテ居リマシタカラ、ドウカ少シノ間待ッテ貰ヒタイト云フコトヲ申上ゲマシタ所ガ、待テナイト言フ、然ラバ十分デモ十五分デモ御待チ願ヒタイト言フ、ソレモイケンナ、モウ待テナイト言フノデスカラ、仕方ナイカラソレデハ待ッテ貰ハナイデモ直グ車デ行クカラト言ウテ、東京區裁判所カラ東京控訴院ニ駈付ケ、刑事ノ法廷ニ入ルト云フ、モウ既に辯論ヲ公開シテ、私ガ申請シタル證人ノ訊問ヲ爲シツ、アル其半バニナッテ居ル、此場合ニ私ハ裁判長ニ、東京區裁判所ト東京控訴院トノ距離ハ僅ニ數町デ車デ來レバ二分カ三分デ來ル、ソレヲモ待テナイデ辯護人ノ請求シタル證人ノ訊問ヲサレト云フコトハ、甚ダ裁判道徳ノ上ニ於テ解スベカサル所デアル、從來サウ云フ場合ニハ多少ノ御猶豫ヲ願フ習慣ニナッテ居ル、然ルニ此重要ナル證人ヲ御取調ニナルト云フコトハドウ云フ譯デアアルカト、斯ウ質問ヲ致シマスルト、ソレハモウ裁判所ノ權利デアアルコトデアアルカラ、決シテ辯護人ノ干渉ハ受ケナイト斯ウ云フ態度デアル、然ラバ此證人訊問ニ對シテ、ドウ云フ事ヲ證人ガ陳述シタカト言フ、ソレハ調書ニ就テ見タラ宜カラウ、調書ガ出來タラ後デ御示ヲ願フト言フ、ソレハ其場合ニ行ッテ必要ガアレバサウスル、必要ナケレバ朗讀セヌカモ知レヌ、斯ウ云フ態度デアアル、ソコデ其被告事件ハ、内容ハ

賭博事件デアリマシタカラ、大シテ論ズル程ノ事件デアアリマセヌガ、兎ニ角有罪無罪ノ岐レル證人調デアアル、ソレデサウ云フ態度ヲ執ルカラシテ、何故此事件ニ限ッテ、左様ニ審理ヲ急ガレルカ、斯ウ質問スルト云フ、何モ理由ハ無イ、理由ガ無いナラバ、五分カ十分待テナイ道理ガ無いデハナイカ、ソコデ吾々ノ方ハ其裁判官ノ態度ニ對シテ、斯ノ如ク重要ナル證人ノ申請シテ、裁判長モ之ヲ必要アリトシテ許可シテ居ル、ソレヲ申請シタル辯護人ノ居ナイ所デ訊問ヲスル、而モソレハ二時間モ三時間モ待テナイ事案ヲ急速ニ裁斷ヲ爲サントスルノハ、是ハ既ニ豫斷ヲ懷イテ居ルモノデアッテ、偏頗ノ裁判ヲ爲ス虞アルモノデアアル、斯ウ言ッテ私ハ忌避ノ申請ヲシタコトガアル、ソレカラ今一ツハ有名ナル板橋五人殺ノ事件、被告人ハ豫審ニ於テ、或程度マデ自白致シテ居ル、ソコデ裁判長ガ訊問ヲスルト云フト、自白ヲ翻シテ五人殺ノ事實ヲ否認シテ參リマス、ト云フト、時ノ裁判長ハ怒號叱咤大聲ヲ發シテ、オ前ハサウ云フ抗辯ヲ一體何處デ誰ニ教ハッタカ、斯ウ云フ訊問デアアル、名前モ裁判官モ皆ナ存ジテ居リマスガ、ソコデ猶ノ如キ被告人ハモウ答辯スルコトガ出來ナイ、足ヲ踏ミ大聲ヲ發シテ、非常ナル叱責ヲセラル、モノデアアルカラシテ、遂ニ默シテ答辯スルコトガ出來ナイト云フ状態デアアル、ソコデ私ハ又裁判長ニ御尋ヲ致シタ、被告ガ自由ナル法廷ニ於テ、被告事件ノ供述ヲ翻スコトハ此事件ノミデナイ、吾々屢々、經驗シテ居ル、ソレヲ何カ辯護人ガ入智慧ヲモ付ケタ如ク、又在監人カラ智慧ヲ付ケラレタカノ如キ疑ヲ以テ、サウシテ自白ヲ翻スコトヲ阻止スルト云フコトハ、オ前ガ自白シタノハ眞實デアアルカラ、オ前ハ有罪トスルト云フコトヲ、前提シテ居ルモノト言ハレテモ仕方ナイデハナイカ、イヤサウデヤナイ、サウデヤナイノナラバ、自白ヲ翻サウト翻スマイト、自由ニ御裁斷ナサレテハドウカ、是モ裁判長ノ職權ダ、斯ウ云フ御話デアリマスガ、是ハ吾々人民ノ側カラ見ルト、明ニ偏頗ノ裁判ヲ爲ス場合ニ當ッテ居ル、事實ヲ明ニシテ居タモノヲ翻ス、其翻ス供述ヲ阻止スルト云フコトニナレバ、豫審デ認メタ事ニ付テ裁判セントスルトデアアル、ソレハ有罪ノ豫斷ヲ懷イテ居ルモノデアアルト言ハレテモ仕方ナイ、併ナガラ今日裁判官ノ人格、學識、閱歷ヲ信ズルノ厚キ、偏頗ノ裁判ヲヨモヤ爲サリハシナイトハ思ヒマス、ケレドモ、辯護人ノ立場カラ言ッテ、斯ノ如キ失當ナル裁判ノ進行ト云フモノヲ看過スル譯ニハ行カヌ、ドウモ處アル場合、偏頗ノ裁判ヲ爲ストキトハ決シテ言ハナイ、時ニハ爲スノ模様ガ現レル、爲スノ状態ニ在ルカラシテ、爲スノ處アルモノトシテ、吾々ハ之ヲ論難シテ忌避ノ申請ヲスルノデアアル、是モ亦結

局抗告マデ致シマシタケレドモ許可ニハナラナイ、ソレカラ又一ツハ是ハ最近起ッタ例デアリマス、東京區裁判所ノ例デアリマセヌガ、長岡地方裁判所ノ囑託ニ依ッテ、某大官タ東京區裁判所ガ訊問スルト云フ際ニ、臨時法廷ト云フ札ヲ懸ケテ、サウシテ豫メ傍聽禁止ト云フ札ヲ出シテ、廷下ヲシテ嚴ニ之ヲ守ラシテ、サウシテ何人モ之ニ入レナイ、關係辯護人ダケハ御入りニナッテモ宜シイト云フコトデ、辯護人ダケ入ッテ行キマシタ、所ガ此處ハ法廷デアナイノダト云フ、法廷デアナイモノヲ何故臨時法廷ト云フ札ヲ御出シニナルカ、ソレハ誰カノ誤リデアマ仕方ガナイ、斯ウ云フ事デアアル、兎ニ角豫メ傍聽禁止ヲシテ、サウシテ廷下ヲ其處ニ置イテ、嚴ニ取締ヲ致シテ居ル以上ハ、之ヲ裁判ノ法廷ト見、又裁判官ガ傍聽禁止ヲシタモノト見ナケレバナラヌ、甚ダ疑シイ取扱振ヲサレテ居ル、ソレハソレデ宜イトシテ、其所謂臨時法廷ニ入ッテ見ルト、傍メ机ガアッテ、煙草盆ヲ與ヘ、御茶ヲ與ヘテ非常ニ優遇ヲシテ居ル、ソコデ是ハ妙ナ話ダ、一般ノ人民ガ裁判所ニ證人トシテ呼バレタ場合、斯ウ云フ御取扱ハ無いガ、煙草盆ヲ與ヘ、御茶ヲ出シ、特ニ非訟部カラ通行サセルノミナラズ、訊問中證人ニ電話ガ掛ッテ來タサウスルト給仕ガ半紙ヲ二ツ折ニシタ位ノモノニ、電話ノ用件ヲ書イテアルノヲ持ッテ來テソレヲ判事ニ渡スト、判事ガ一覽シテ證人ニ示シ、證人ト判事ト書記ト三人デ吾々ノ面前デ合議ヲ致シテ、訊問中ニモ拘ラズ、書記ガ其用件ノ書イテアル紙ヲ持ッテ電話室ヘ行ッテ、數分ノ後ニ歸ッテ來テ、内閣カラ何カ御用デアアル、斯ウ云フ事デアアル、其間ハ裁判官モ訊問ヲ止メ、吾々モ默然ト其處ニ待ッテ居ル、ソコデ吾々ハ殊ニ其證人ニ付テハ、公判裁判所ニ呼出シテ調ベテ貰ヒタイト云フ要求デアッタモノヲ、裁判所ガ途中ニ於テ其決定ヲ翻シテ訊問ヲ致シタノデアアル、ドウモ即チ獨立ナル司法官ガ、行政權ニ獨立シテ職務ヲ行ハナケレバナラヌ關係デアアルニ拘ラズ、斯ノ如ク政府ノ官吏タルノ故ヲ以テ非常ナル便利ヲ與ヘ、優遇ヲ致シマシテ、煙草盆ヲ出シ、御茶ヲ出シ、電話ノ取次ヲスル、而モソレガ裁判事務ノ執行中ニ行ッタ、斯ウ云フ場合ニ吾々人民側デアハ、ドウモ裁判所ガ不公平デアアル、而シテ吾々ガ一面ニ於テ辯護權ヲ執行セントスルト、是ハ囑託事務ノ一部デ、公判手續ノ一部デアアルカラ其訊問ハ許サナイ、辯護士ノ職務ヲ著テ來ルコトモ干渉ハセヌケレドモ、必要ハナイノダト云フノデ、辯護人ハ恰モ石塊カ土偶坊ノ如ク、其處ニ坐ッテ居ルノデアアル、是ハ法律上ノ解釋デスカラ、一概ニ非難スベキモノデアアリマス、マイガ、併ナガラ其邊ヲ見ルト、如何ニモ裁判所ガ不公平ノヤウニ思フ、併ナガラ吾々ガ之ヲ信念ニ問フテ見デ、

此裁判官が不公平ナル裁判ヲ爲スト云フ確信モアリマセヌ
ガ、法律ニ於テハ不公平ナル裁判ヲ爲スノ虞アルトキト云
フノデアル、ドウモオカシイ、斯ウ云フノガ吾々ノ本案第二
十五條ノ運用ニ付テハ疑アリマス、サウ云フ例ヲ持テ來
テ、私ハ司法當局ニ御尋致シタイノハ、偏頗ノ裁判ヲ爲ス
處アルトキト云フノハ、既往三十年ノ御經驗ニ依ッテ、未ダ
曾テ行ハレタコトガナイト云フナラバ、斯ウ云フ規定ヲ設
ケテ、如何ニモ裁判官ト云フモノハ、偏頗ノ裁判ヲナスモ
ダト云フヤウナ感念ヲ人民ニ與ヘルコトハ宜シクナイ、既
往ニ於テ然リ、現在益々將來ニ於テ全然ナイト云フコトナ
ラバ、是ハ全然御削リニナッタ然レベシト思フ、併ナガラ
今申上タルヤウナ經驗ニ於テ、實際辯護權ヲ行使スル上ニ
於テ、如何ニモ裁判官が不公平ナル事ヲ爲スト云フ考ガア
ル場合、其空氣ノアル場合、其模様ノアル場合、其狀態ノア
ル場合ニ、吾々主觀的ノ方面カラ、此規定ニ依ッテ忌避ノ申
請ヲスルト云フ場合ニ、此實際ノ運用ハドウナルカト云フ
ノデアリマス、即チ偏頗ノ裁判ヲ爲ス虞アルトキト云フモ
ノハ之ヲ行使スル權能ヲ有テ居ル、被告人並ニ辯護人ニ於
テ、如何ニモ偏頗ノ裁判ヲ爲スヘキ狀態ノアル場合ニ於テ、
此法ヲ適用シテ差支ナイノデアリカ、辯護人ヤ被告人ガサ
ウ考ヘテモ一向差支ガナイ、之ヲ其裁判ヲ爲ス者ガ、此狀態
ニ於テ爲スアリト認メタル場合デナクテハイカス、即チ二十
五條ノ規定ハ、客觀的ノ見地カラ立法セラレタモノデア
ルカ、被告人辯護人カラ、主觀的ノ見地カラ立法セラレタノデ
アルカ、是ハ屢々質問ガアリ、其法制ニ付テ重大ナル關係ガ
アルノニ、司法省ガ何等ノ修正ヲセズ、何等ノ手ヲ入レズ、
斯ノ如キ舊イ文字ヲ其儘襲スルト云フコトハ、餘程考慮
ヲ要セラレタ事ト考ヘマス、是ハ事實問題トシテモ今申上
ガタヤウナ場合ハ、吾々良良心ニ問ヒ、常識カラ考ヘテ、當
時ノ場合カラ考ヘマシテ、忌避ヲ爲スニ足ル場合デア
ルト考ヘテ居ルガ、皆テ裁判所ニ於テ容レラレナイ、是ハ此規定
ノ中ニ於テ、餘程疑ノアル文字デアルト言ハレテモ仕方ガ
ナイト考ヘルノデアリマス、前會數回御答辯モアツタヤウニ
記憶致シマスルガ、必ズシモ質問者ノ質問モ其當ヲ得テ居
タトモ見受ケズ、又必シモ其ノ御答辯ガ、御質問ニ當答
テ居タトモ考ヘマシメ、定ニ貴重ナ時間ヲ費シテ濟ミマ
セヌガ、屢々起ル問題デアリマスカラ、腹藏ナキ御意見ヲ承
テ、將來吾々ノ執ルベキ方針ノ上ニモ益ガアリ、又將來ノ
裁判道徳ニ影響ノアル事デアリマスカラ、是非御説明ヲ願
ヒタイ

タノデ、實ハ能ク調ベテアリマセヌ特殊ノ事件ニ付テハ、
一々報告ヲ徴シテ居リマスガ、忌避事件ハ全部報告セヨト
云フコトニ今迄ナッテ居リマセヌ、ソレデ刑事訴訟法實施以
來今日ニ至ル間ニ於テ、忌避ノ申請ト云フコトハ隨分アツ
タデアリマスガ、立ッテ多數ガドノ位アルカ、全ク立ッテコ
トハ無イカト云フコトハ、實ハ私ハ何トモ申上ゲヤウガゴ
ザイマセヌ、併シ立ッテコトガ無イトスレバ、實ハ寧ろ帝國
ノ司法部ノ爲ニ、非常ニ幸ノ事デアルト思フ、判事ハ公平無
私ノ立場デ、裁判ヲスベキモノデアアル、ソレガ判事ノ責任デ
アルノデス、忌避ノ申請ト云フヤウナ事ガ立ッテ例ガ度々
アルト云フヤウナコトデハ、裁判ノ威信ハ全ク無イ、サウ云フ
事ノ無カッタコト云フコトハ、司法部ノ爲ニ喜ブベキ事デア
ルト考ヘテ居リマス、假令今マデ一度モ立ッテコトガ無イト致
シマシテ、斯ウ云フ條文ヲソナラ削ッテラドウカ、斯ウ云
フ御議論モアツタヤウデゴザイマスガ、ソレハドウモ御同意
ガ出來ナイ、假令今日マデ無イニシテモ、將來ヲ慮ッテ、斯
ウ云フ規定ヲ置キコト云フコトハ、必要デアリマス、將來絕對
ニ適用ガ無イト云フコトハ、無論希望スルノデアリマスガ、ソ
レニシテモ條文ダケハ置カナケレバナラス、尙ホ其條文ノ
意味ニ付キマシテ、御尋ガアリマシテバ、無論裁判ノ偏頗ナ
ル虞ガアルト云フ趣意ニナッテ居ルノデ、外部カラ見テ之ヲ
疑フニ足ルベキ相當ノ理由デアレバ、此法文ニ當ルノデア
リマシテ判事ハ公平ニヤル積リデ居テモ、外部ニ現レタ
所ガ疑フベキ事情ニナッテ居ルナラバ、無論之ニ當ル、併ナ
ガラ被告人ヤ辯護人ガ、或事情ヲ提ヘテ公平ヲ疑フ所ガ、
其被告人ヤ辯護人ガ疑フタカラ之ニ當ルト云フコトハ言ヘ
ナイ、隨分疑方ガ誤テ居ルコトモアルノデアリマスカラ、
要スルニ是ハ辯護人、或ハ被告人、裁判官其人ト云フコトデ
ナク、之ヲ離レテ外部カラ相當ニ判斷シテ、言ヒ換ヘレバ何
人ガ見テモ、ア、云フ事情ガアルナラバ公平ヲ疑ハナケレ
バナラスト云フダケノ事實ガアレバ、裁判官ハサウ云フ考
ガ無イノデアアツテモ、無論之ニ當ルト云フコトニナルト云フ
コトハ、法文ノ趣意トシテハ疑ナイノデアリマス、今横山君
カラ二三ノ例ニ舉ゲラレタヤウデアリマスガ、其例ニ付テ
私ハ意見ヲ述ベル譯ニハ參リマセヌガ、若シ果シテサウ云
フ事例ガ御話ノ通りアツタスレバ、其取扱ハ甚ダ不深切デ
アル、前ノ例ハサウデアリマスガ又後ノ例ノ場合ニ於テモ
甚ダ穩當ヲ缺イテ居ル、斯ウ云フコトガ言ヘルダラウト思
フ、併シ其場合ニ、果シテ偏頗ノ裁判ヲスル虞ガアルト云フ
場合ニ當ルカドウカト云フコトハ、實際ノ事情ニ照シテ見
マシテサウシテ外部カラ適當ニ判斷スル、斯ウ云フコトニ
ナルノデアリマス、要スルニ法文ハ無論置カナケレバナラ
ス、又法文ノ趣意モ文字ニ表ハレテ居ルノデ、アトハ實際ノ

運用如何ノ問題デアルト思ヒマス、無論其法文ガ行ハレル
場合ニハ此法律ノ精神ニ從ッテ、適當ニ運用スルヤウニ注意
スルト云フコトハ當然デアリマス、是ハ他ノ條文ニ付テモ
段々申上ゲタ通りデアリマス、以上ノ趣意ニ御諒解ヲ願
ヒタイト思ヒマス

○横山(勝)委員 無論單ニ被告人若クハ辯護人ノミガ、偏
頗ノ裁判ヲ爲ス虞アルトキト云フ事ノ疑ヲ以テ、其一事ニ
依ッテ其條文ガ援ケヲスルモノデアアル、即チ絕對主觀的ノ立
法デアルトモ思ヒマセヌ、併ナガラ偏頗ノ裁判ヲ爲ス虞
アルトキト云フノハ、一番ニ此條文ニ觸レテ、サウ云フ裁判ヲ
爲ス虞アルト云フコトヲ考ヘルノハ、利害關係ノ最モ密接
ナル被告人、並ニ辯護人ニ存スルコトハ、是ハ疑ノ無イ事デ
アル、傍聴ヲシテ居ル關係ノ無イ人デアルトカ、牽連犯ノ位
置ニ在ル辯護人、或ハ牽連犯ノ被告人ハ、其法廷ニ居リマシ
テモ、其訊問其他ノ訴訟手續ガ自己ノ身邊ニ何等ノ關係ナ
キ場合ニハ、客觀的ニ之ヲ觀察スレバ、實ニ亂暴ヲ取テラス
ルト考ヘテモデスナ、ソレニ付テ別ニ偏頗ノ裁判ヲ爲ス虞
アルト云フ風ニハ考ヘナイカモ知レナイ、即チ第三者デア
リテ、利害關係ガ無イト云フ場合ニハ——デアリマスガ
ラ、此條文ニ依ッテ救済ヲ得ニスル被告人並ニ辯護人ハ、
自己ノ扱ハル、訴訟手續、又自己ノ辯護ヲ擔任シテ居ル被
告人ノ權利義務ニ關シテ、裁判官ノ違法ヲ申請ガ爲シ、希望
ト云フ場合ニ、先ヅ此規定ニ依ッテ忌避ノ申請ヲ爲シ、希望
ヲ申立テタルノデアリマスカラ、第一ニ此偏頗ノ裁判ヲ爲ス
虞アルトキト云フ必要ヲ感ズルコトハ、當該被告並ニ當該
辯護人デアルト云フコトハ疑ナイ、サウスレバ事實ノ上ニ
於テ此法文ヲ解釋スルニ當テ、被告人並ニ辯護人ノ位置ト
云フモノヲ大ニ參酌セネバナラス、又其人々ガ救済ヲ訴ヘ
ルコトニ依ッテ、此規定ト云フモノハ始テ活動スルノデスカ
ラ、或ハ客觀的ニ觀察スレバ、偏頗ノ裁判ヲ爲ス虞アル場合
デモ、之ヲ他ノ被告人、他ノ辯護人傍聴人ノ側カラ、何モ之
ニ向ッテ救済ヲ訴フル必要モ無ケレバ、權利モ義務モナイノ
デアアルカラ、此條文ハ事實ニ於テ行ハレナイノデアリマス、
デアリマスカラドウシテモ、斯ウ云フ規定ヲ設ケテ、既往ニ
於テサウ云フ必要ガ無クテモ、萬一ノ場合ヲ慮ッテ本法ノ立
法ヲ爲シタリトスレバ、ドウシテモ被告人並ニ辯護人、即チ
當該事件ニ直接密接ノ關係アル所ノ被告人並ニ辯護人ガ、
此偏頗ノ裁判ヲ爲スノ虞アルトキト云フ規定ニ當ルコトハ
是ハ申サマデモ無イ事デアリマス、而シテ然ラバ其裁判ヲ
誰ガスルカト云ヘバ、其時ノ裁判所ニ於テ判斷スル、是ハ次
ノ條文ニ行ッテ御質問致シマスケレドモ、其裁判ヲスル裁判
ハ何ヲ標準ニスルカ、之ヲ第三者ノ地位ニ立ッテ公平ニ觀察
シテ、偏頗ノ裁判ヲ爲ス虞アルトキト云フヤウニ見ユル場

合ニ於テモ、被告並ニ辯護人ニ於テハ、左様ナ事ヲ考ヘナイ
場合ガアルト見ル場合ガアラウト思フ、申立ヲ致シテ居ル
ケレドモガ、併シサウ考ヘテ居ナイ、先刻申上ゲタヤウニ、
忌避ノ裁判ヲ爲スコトニ依ッテ、訴訟ヲ遅延スル目的デヤ
タモノデアルト云フヤウナ事實ガ明瞭ナル場合ハ、被告人
並ニ辯護人ハ、偏頗ノ裁判ヲ爲ス虞アリトハ思フテハ居ラ
ナイ、目的ハ他ニアッテ訴訟ヲ遅延セシムルノミデアル、サウ
スレバ被告人並ニ辯護人ハ、偏頗ノ裁判ヲ爲ス虞アル場合
トハ見ズシテ、此規定ニ依ッテ、不當ナル訴訟手續ヲ致シ
居ル場合ガアルモノト見ナケレバナラス、併ナガラ裁判ヲ
スル裁判官カラ見レバ明ニ忌避ノ申立ヲシタモノト見テ、
其理由ハ偏頗ノ裁判ヲ爲ス虞アル場合ニ相當スルト云フコ
トデアリマシテ、無論此規定ニ依ッテ忌避ノ申請ト云フコ
トハ、認容セラル、ノデアリマスカラシテ、必ズ被告人ノ意思
如何ニモ依ラナイ、被告人ノ意思ノミニ依ルモノデナイト
云フコトハ諒承致シマスケレドモ、併ナガラ此規定ト云フ
モノハ、訴訟關係人ヲ保護スル爲ニ出來テ居ル規定デア
ル、被告人ヲ保護スル意味ニ於テ、辯護人ノ辯護ヲシテ、圓満ニ
行ハシムル爲ニ此規定ヲ設ケタノデアリマスカラ、此忌避
ノ申立ノアツタ場合ニ裁判ヲ爲ス、裁判官ガ、何レニ重キヲ
置クカト云フニ私ハ之ヲ主觀的ノ立場ニ立ッテ當時ノ模
樣ヲ見テ、サウシテ被告人並ニ辯護人ノ言フコトハ成程尤
アル、客觀的ニ忌避ノ裁判ヲスルコトハ全然ナイケレドモ、
併ナガラ被告人並ニ辯護人ガサウ云フコトヲ疑フ事情デア
ル、即チ處方アル場合デア
ル、斯ウ云フ場合ニハ此二十五條
ノ規定ニ依ッテ忌避ノ裁判ハ辯護人並ニ被告人ノ要求通り
ニ裁判セラルベキモノト思フ、ソコデ解釋方法ヲ一面カラ
見レバ、立法ノ精神ヲ客觀主義ヲ根柢トスルカ、主觀主義ヲ
根柢トスルカ、其立場ニ依ッテ此法律ハ自由自在ニナルモノ
デア
ル、訴訟關係人ヲ保護スル規定デアリ、訴訟關係人ノ權
利ヲ擁護スル規定デア
ルカラ、ドウシテモ私ハ被告人並ニ
辯護人即チ人民ノ側ニ立ッテ、人民側ノ利益ヲ保護スルト云
フ意味ニ於テ、此方面ノ意思ニ重キヲ置イテ、寧ロ他ノ事情
ヲ參酌スルト云フノガ此立法ノ大精神デナイカト思フ、全
然裁判官ノ側ニ立ッテ言フナラバ、若ハ司法省ノ側ニ立ッテ
言フナラバ、立法者ノ側カラ申シマスナラバ、苟モ相當ノ學
識ガアツテ、相當ノ條件ヲ備ヘ、相當ノ試驗ヲ經テ相當修習
ヲ致シテ居ル判事ニ、万ガ一ニモ斯ンナコトガアラウ筈ハ
無イノデアリマスカラ、絕對客觀主義ノ立場ニ立ッテ考ヘ
ルナラバ斯ウ云フ規定ハ全ク無クテ宜イ、三十年間此法律
ヲ適用シテ見テ、一遍モ無カッタ、將來三十年、五十年ニ
アラウ道理ハナイ、三十年經ッテモ五十年經ッテモ起ルコト
無イ場合ヲ想像シテ、此忙シイ場合ニ此立法ヲ爲サル必要

ハアルマイ、デアリマスカラシテ、私ハ司法權運用ノ爲ニハ
遺憾ノ場合ガ生ズルカモ知レマセケレドモ、時ニハ裁判
官モ忌避サル、場合モアリ、忌避ノ申立ヲスル場合モアル
ト云フ時ニナッテ、始メテ此司法權ノ威信モ保テルト思フ、
忌避ノ申立ニ對スル裁判ト云フモノハ、結果ガ分ッテ居ル
云フコトニナッテ居ル、裁判ハ何時デモ人民側ガ負ケデ、裁
判官ガ勝ツト云フコトニナッテナラバ、折角人民保護ノ爲ニ
此二十五條ト云フモノヲ規定シタノデアリマスカレドモ、
何等效力モ無イコトニナル、人民權利擁護ノ爲ニ作ッタル
ト云フ美名ノ下ニ立法セラレタル法律ガ、人民側カラ見
レバ痛クモ痒クモ酸クモ甘クモナイト云フコトニナル、無用
ノ法文デ無クテモ宜イト云フコトニナルト私ハ斯ウ考ヘル
デアリマスカラ此規定ト云フモノハ、解釋ノシヤウニ依ッ
テ白クモ黒クモナルノデアリマスカラ、立法ノ精神ハ人民側
ノ意思ニ重キヲ置イテ、而シテ後ニ此規定ヲ適用スルカ、絶
對客觀主義デ人民ノ意思ハドウデモ構ハヌ、ソナ事ガア
ルモノデナイト云フ立場ニ立ッテ解釋スル意味デア
ルカ、此
法文ヲ立テラレタ根柢ヲ私ハ伺フテ置キタイ
○林政府委員 先程御答ヲ致シマシタ通り、此法案ノ意味
ニ於テハ、被告人辯護人ノミニ意思ニ依ル譯ニハ無論行カ
スノデアリマスカ、併ナガラ之ヲ判斷スル上ニ於テ、被告人
辯護人ノ地位並ニ其狀況ヲ、被告人辯護人ノ立場カラ如何
ニ感ズルコト云フヤウナコトヲ、判斷ノ材料ニ置クモノデ
アルト云フコトハ、是ハ論ハ無イト思ヒマス、全體ノ事情即
チ客觀的事情、主觀的事情總テ考慮ニ置イテ、サウシテ相
當ノ判斷ヲスルト云フノガ本案ノ趣意デアリマス、一方ニ
片寄ルコト云フコトハ如何デアラウカト考ヘテ居リマス
○横山(勝)委員 サウスルト尙ホ進ンデ伺ヒマスガ、申
マデモナク忌避ノ原因アル場合、即チ除斥セラルベキ原因
ノアル場合、是ハ絕對ニ適用ノアルベキモノト考ヘマス、ソ
レカラ偏頗ノ裁判ヲ爲ス虞アルトキ、是ハ先刻來私カラモ
申上ゲタ如ク、訴訟關係人ノ權利ヲ保護スル意味ニ於テ出
來タ法律デア
ルコトハ無論デアリマスガ、便宜上委員長ノ
許可ヲ得テ、第二十六條ニ關聯シテ御尋ヲ致シタイノハ、第
二十六條ニハ事件ニ付請求又ハ陳述ヲ爲シタル後ハ偏頗ノ
裁判ヲ爲ス虞アリトシテ判事ヲ忌避スルコトヲ得ス、即チ
原因ヲ知ッテ居ッテ、偏頗ノ裁判ヲ爲ス事ノアルト云フ原
因ヲ知リナガラ、事件ニ付テ請求ヲシタリ陳述ヲシタ場合
ニハ忌避ノ申立ガ出來ヌトシテ當事者ノ處分權ヲ認メ
ラレテ居ルノデアリマス、言葉ハ惡イカモ知レマセヌガ、
私ハ處分權主義ヲ發露シタモノト考ヘマス、サウスルト此
忌避ノ原因ガアツテ偏頗ノ裁判ヲ爲スヤウナ虞ノアル裁判
官ガ裁判ヲスルト云フコトハ、一面ニ於テ訴訟當事者ノ權

利ヲ保護スルノデアリマスカレドモ、一面ニ於テハ是ハ又
司法權ノ神聖ヲ保持シテ、司法權ノ威信ヲ保ツト云フ立法
ノ意味モ含マレテ居ルコトハ明瞭デア
ル、ソレヲ何ガ故ニ當
事者ノ處分ニ委ヌカ、當事者ノ拋棄スルコトニ一任シテ顧
ミナイカ、即チ第二十六條ノ規定ニ於テ、當事者ノ處分權
許シテ居ルコト云フコトハ、第二十五條ノ規定ニ於テ偏頗ノ
裁判ヲ爲ス虞アルトキト云フコトヲ認メテ、之ヲ裁判所ノ
前ニ持出スカ持出サヌカト云フコトハ、當事者ノ意思ヲ推
測セラレテ居ルノデアアラウト私ハ考ヘル、即チ當事者ノ處
分權主義ヲ認メタコトガ即チ當事者ノ意思ト云フモノヲ
尊重シテ出來タモノデア
ルカト云フコトハ、是ハ關聯シテ
承リタイ、サウスレバドウシテモ第二十五條ノ規定ト云フ
モノハ、當事者ノ意思、當事者ノ利益、當事者ノ主張ト云フ
コトヲ根據ニシテ居ルト云フコトハ、本案全體ノ意思ガサウ
ダラウト思フ、サウ云フコトデアリマスカラバ、屢々申上グル
如ク第二十五條ノ規定ト云フモノハ、全般ノ事情ヲ斟酌
ノ上デ御判斷ニナルト云フケレドモ、全般ノ事情ヲ斟酌ス
ル上ニ於テ、最も多ク最も濃厚ニ主トシテ斟酌セザルベカ
ラザルモノハ、辯護人並ニ被告人ノ意見デア
ル、斯ウ云フ立
法ノ精神ガ私ハ含マレテ居ラネバナラスト考ヘル、即チ主
觀主義ノ立場ニ立ッテ、第二十五條ト云フモノハ規定スベ
ク、其意味ニ於テ解釋スベキモノデア
ル、此故ニ第二十六
條ニ於テ當事者ノ處分權主義ヲ認メテ、サウシテ一旦陳述
ヲシ請求ヲシタ場合ニハ、其裁判官ニ對スル忌避ノ申請ヲ
許サヌノデア
ル、斯ウ云フヤウニ關聯シテ疑問ガ起ルト思
ヒマスガ、ソレデモ矢張政府委員ノ御考ハ前ノ通りデア
リ
マスカドウカ、之ヲ伺ッテ置キタイ
○林政府委員 横山君ノ言ハレル意思ト云フコトハ、ドウ
云フコトニナルカ一寸分リ兼ねマスガ、要スルニ御答ヲシ
タ趣意ハ、唯ダ被告人トカ辯護人ガ偏頗ノ虞ガアルト思フ
カラ、ソレデ忌避ノ理由ガアルト定メル譯ニ行カナイ、併
ナガラ茲ニ現ハレタ裁判官ノ取扱ニ關スル事實ガ、被告人辯
護人ニ如何ニ感ズルカ、是ハ餘程重キヲ置クベキ事デア
ルト云フコトハ論ヲ俟タヌト思ヒマス、被告人ト純粹ノ第三
者トハ、裁判官ガ同ジ手續ヲシテモ感ズル方ガ無論違フ、此場
合ニ被告人ノ立場ニ居ル者ガ如何ニ感ズルカ、斯ウ云フコ
トヲ忌避ノ申立ガ理由アルカドウカラ判斷スルニ付テ、十
分ニ重キヲ置イテ考ヘルト云フ意味デア
ルナラバ、横山君
ノ言ハレルノト私ノ答ヘテ居ル事ハ全ク同ジ意味ニナル、
唯ダ私ハ辯護人及被告人ガ偏頗ノ虞アリト信ジタト云フ事
實アルノ一事ヲ以テ、既ニ忌避ノ理由アリ、斯ウ云フコトニ
ナルト云フコトハ出來ナイ、斯ウ云フ意味デ御答シテ居
ルノデアリマス

○横山(勝)委員 サウ致シマスルト、現行法ノ四十一條トソレカラ本案ノ第二十五條ノ規定トハ、精神ガ違フト私ハ認メマス、現行法ノ四十一條ニハ、御承知ノ通り「偏頗ノ裁判ヲ爲スコトヲ得」ト書イテアリマス、是ハ先刻來屢々申上

ヲ此處デ言明ラスルコトガ出來マスカドウカ、是ハ實際問題ニ影響ヲ致シテ困ル問題デアリマスカラ、重ネテ之ヲ承テ置キマス

ニ反イテ手續ヲスル場合ハ、無論包含シテ居ルト云フコトヲ屢々論ジタコトガアリマスケレドモ、是ハ今日マデ忌避ノ裁判ニ於テハ之ヲ承認シテ居ラス、サウ云フ場合ニハ此解釋上如何ヤウニナリマスカ承リタイ

忌避スルコトヲ得」ト書イテアリマス、是ハ先刻來屢々申上

○林政府委員 二十五條ノ趣意ト現行法ノ四十一條ト全然違ハナイト云フコトハ言明シテ置キマス、本案ニ於テ現行法ノ四十一條ノ變更スル考ト云フモノハマルデ無イ、唯

○林政府委員 裁判所ガ法律ニ反スル手續ヲシタト云フ一事ニ依テ、忌避ノ理由ガアルト云フ事ハ認メラセマス、要スルニ法律ノ手續モ人々ニ依テ見解ガ違フテ、裁判官ハ適法ナリトシテ行ヒ、訴訟關係人ハ違法ナリト感ズルコトモアリマス、違法デアルト云フコトノ外ニ他ニ事情ガ伴フテ、

怪シイ、斯ウ云フコトヲ疑フベキ狀況アル場合ニ、忌避ノ權利ヲ認メテ居ルノデアリマスカラ、即チ吾々ガ裁判官ノ行爲ニ對シテ、主觀的ニ疑フ事情ガアレバソレデ好イノデア

ハ後ノ來ルベキ機會ニ讓リマス、サウシテ尙ホ二十五條ニ付テ御尋ヲ致シテ置キタイノハ、是ハ實際問題トシテ關係ガアル裁判官ガ違法ヲ取扱フスル場合——違法ヲ取扱フスル場合ニハ、現行法ニ於テモ相當救済手段方與ヘテアリマ

○上島委員 其點ハ無論兩方ニ及ビマス

ルナラバ兎ニ角、現代ノ進歩シタル裁判官ガ偏頗ナ裁判ヲシハシマイケレドモ、ア、云フ事ヲサレ以上ハナナダカ

心ヲ致シマシタカラ、此點ニ付テハ意見モアリマスガ、ソレハ後ノ來ルベキ機會ニ讓リマス、サウシテ尙ホ二十五條ニ付テ御尋ヲ致シテ置キタイノハ、是ハ實際問題トシテ關係

○横山(勝)委員 二十五條ニ付テハ私ハ是デ止メマス

利ヲ認メテ居ルノデアリマスカラ、即チ吾々ガ裁判官ノ行爲ニ對シテ、主觀的ニ疑フ事情ガアレバソレデ好イノデア

ガアル裁判官ガ違法ヲ取扱フスル場合——違法ヲ取扱フスル場合ニハ、現行法ニ於テモ相當救済手段方與ヘテアリマ

○上島委員 其點ハ無論兩方ニ及ビマス

情カラ見テ、偏頗ノ裁判ヲ爲スベキ事情ガナケレバナラストスルナラバ、私等ハ最早三遍モ四遍モ忌避ノ裁判ヲシテ

ノ手段ハアリマスケレドモ、併ナガラ其救済手段ガ當該繼續審ニ於テハ救済セラレザル場合ガアル、本案ノ規定ハ能ク通ジマセヌカラ、其違法ノ手續ニ對シテ異議ノ中立ヲス

○横山(勝)委員 二十五條ニ付テハ私ハ是デ止メマス

居リマスカラ、サウ云フ事情ガ無ケレバ、何時モ僕等ハ懲戒裁判ヲラレテ居ル管デアル、ケレドモ御承知ノ通り現行

ル、却下サレハ、今度ハ却下サレザル場合ニ於テハ、本案ノ裁判ト同時ニ之ヲ爲ス、斯ウ云フコトニナリマス、現ニ裁

○上島委員 其點ハ無論兩方ニ及ビマス

窃ニ、被告人竝ニ辯護人ガ疑ハ起スベキ事情ガアレバ宜シト云フコトニナリテ居ルカラ、裁判所ハ吾々如何トモスル

合方屢々アル、本案ノ如ク同時ニ裁判サレルト、被告人ノ方ニ於テハ非常ナ不利益ナ場合ガアル、例ヘバ宣誓スベカラ

○横山(勝)委員 二十五條ニ付テハ私ハ是デ止メマス

コトガ出來ナイ、兎ニ角吾々モサウ云フコトガ疑ハシイ、裁判官ノオヤリニナル事ハ決シテ偏頗ハアリマス、客觀

ザル證人ニ宣誓サシタ、現行法ノ規定ニアツタ誘導訊問ヲシテハイカスト云フ規定ニ反イテ、裁判官ガ誘導訊問ヲスル、

○林政府委員 只今御尋ノ點ハ、私訴當事者ハ、私訴ノ取調ニ入ラス中ニ忌避ノ權利ヲ行フコトガ出來ルト云フ意味デア

的ニ見レバ差支アリマス、ケレドモ辯護人竝ニ被告人カラ見レバ、ドウモ疑ハシイ、此疑ハ起スベキ事情ト云フモノ

アルコトハ、御經驗ノ有ル政府委員ハ悉ク御承知ノ通りデア

○林政府委員 其點ハ無論兩方ニ及ビマス

ガ之ニ引掛テ來テ居ルカラ、僕ハ幸ニ懲戒裁判ニ付セラレ

アルコトハ、御經驗ノ有ル政府委員ハ悉ク御承知ノ通りデア

○林政府委員 其點ハ無論兩方ニ及ビマス

ルコトヲ免レテ居ル、是ハ私バカリデハアリマセヌ、天下ノ辯護人皆サウデアラウト思ハレル、堂々タル大家ノ先生

アルコトハ、御經驗ノ有ル政府委員ハ悉ク御承知ノ通りデア

○林政府委員 其點ハ無論兩方ニ及ビマス

ガ悉ク忌避ノ申請ヲオヤリニナッテ免レテ居ルノハ疑フベキ事情ト云フ事ニ重キヲ置カレテ解釋サレテ居ルカラデア

アルコトハ、御經驗ノ有ル政府委員ハ悉ク御承知ノ通りデア

○林政府委員 其點ハ無論兩方ニ及ビマス

置キマス、是ハ既ニ他ノ人カラ聴カレタカモ知リマセヌガ、要スルニ裁判官ガ先入主トナツテ居ル場合、豫斷ヲ懷イテ居ル場合、是ハ豫斷ヲ懷イテ居ルカ居ラスカト云フ事ハ、事實上ノ判斷ニ屬スルガ、若シ此嫌ノアツタ時ニ豫斷ヲ懷イテ居ルト云フコトガ肯定セラルル場合ニナツトキニハ、矢張偏頗ノ裁判ヲ爲スト云フ一例ニ算ヘテ宜シウゴザイマスカ

○林政府委員 只今御尋ノ點ハ、勿論サウデアラウト考ヘマス

○宮古委員 只今上昌君ノ質問ニ關聯シテ御尋致シマスガ私訴ノ當事者ハ、公訴ノ受理中ニ證據調ノ申請ヲスルトカ或ハ辯護人若クハ被告人カラ申請シテ證人ニ對シテ質問ヲ要求スルトカ云フヤウナコトハ、總テ出來ルコトニ此案ハ出來テ居ルノデアリマスカ

○林政府委員 其點ハサウハナツテ居リマセヌ、今御答シタノハ忌避ノ請求ダケデアリマス、證據調ノ請求デアルトカ、或ハ證據調ノ場合ニ發問スルトカ云フヤウナコトハ私訴ノ手續ガ濟ミマセヌト、私訴關係者ハ出來ヌコトニシテ居リマス

○宮古委員 公判ノ調中ニ矢張私訴ノ當事者カ證人ニ對シテ質問ヲ求メルト云フヤウナ事ガアリ、サウシテソレニ對シテ裁判ノ行動ガ如何ニモ偏頗ノ虞ガアルト云フヤウナ場合ナラバ、ソレニ對シテ矢張忌避ガ出來ナクテハ、首尾貫カナイヤウニ思ヒマス、如何デス

○林政府委員 此私訴ノ當事者ハ公訴ノ取調ノ済ンダ後ニ自己ノ必要トスル證據ノ取調ノ申請モ出來マスノデアリマス、公訴手續中ニ私訴當事者ガ餘リ深ク手續ニ干與スルト云フコトハ、手續ノ混亂ヲ醸スコトニナルト考ヘマス、本案ニ於テハサウ云フ意味カラ、私訴當事者ノ公訴手續ニ於ケル權利ト云フモノハ、制限シテアリマス

○宮古委員 私訴部ニ關スル第五百八十五條ヲ見マスルト但書ガアリマシテ「裁判長ハ公訴ノ受理中ニ雖モ職權ヲ以テ私訴ニ付取調ヲ爲スコトヲ得」ト云フ規定ガアル、ソレカラ五百八十八條ヲ見ルト「公訴ニ付取調ベタル證據ハ私訴ニ付取調ベタルモノト看做ス」ト云フヤウナコトニナツテ、居ツテ公訴ノ分ヲ私訴ニ對シマシテ影響セシムル場合ガ幾ラモアルヤウニ思ヒマスガ、サウスルト矢張公訴ノ取調中デアツテモ、私訴ノ當事者ガ或ハ發問スルトカ、若ハ證據調ノ申請ヲスルトカ云フヤウナコトガ出來ナクテハ、ドウモ釣合ガ取レナイヤウニ思ヒマスガ、サウ云フコトデゴザイマスカラ矢張公訴ノ調中ニモ相當ノ申請等ヲ爲スコトガ出來テ、偏頗ノ行動ガアリト認メタル場合ニハ、判事ヲ忌避スルコトガ出來ルト云フヤウナ事ガアル方ガヨササウニ思ヒ

マスガ如何デスカ

○林政府委員 只今御引用ノ五百八十五條ハ裁判長ガ事件ヲ取調ベマシテ、私訴ノ取調モ同時ニスル方ガ宜シイト、斯云フ事ヲ考ヘマシタ場合ニ職權ヲ出來ルト斯ウ云フ規定ニナツテ居ル、隨テ裁判長ガ職權ヲ私訴ニ付テ取調ヲシマシタ場合ニ、其取調ニ關連シテ私訴當事者ガ權利ヲ行フコト出來ルノハ、是ハ論ハ無い、ソレデナク單ニ公訴ノ取調ヲシテ居ル際ニ、私訴ノ當事者ガ發言シタリ、質問シタリ、或ハ證據調ノ申請ヲシタリスルコトハ、斯ウ云フコトハヘナイ積リデアリマス

○橫山(勝)委員 是ハ特ニ本條ニ付テ關連シテ御尋シテ置キタイ、方面ヲ換ヘテ伺フデ置キタイノハ「請求又ハ陳述ヲ爲シタル後ハ偏頗ノ裁判ヲ爲ス虞アリトシテ判事ヲ忌避スルコトヲ得」ト斯ウ云フ規定デ、是ハ當局ノ説明書ニ依レバ、忌避權ノ濫用ヲ制限シタモノデアルト、斯ウ云フ意味デアリマス、是ハ民事訴訟法ノ規定ニ依レバ、御承知ノ通り、此意味ノ規定ガアリマス、是ハ民事ハ原則ガ當事者處分權主義デアリマスカラシテ、多クノ場合ニ當事者ノ處分ヲ認容スルト斯ウ云フ意味デ民事ハ其意味ノ規定ヲ置イタラデアラウト思ヒマス、是ハ能ク分ツテ、居リマスガ、併ナガラ當事者ノ處分權ヲ認メルト云フ事ハ寧ロ例外デアツテ、職權主義ヲ以テ原則ト致シテ居ル所、此刑事訴訟法ニ於テデス、現ニ裁判官ガ忌避ヲ受ケルノ原因ガアリ、其偏頗ノ裁判ヲ爲ス虞ガアルト云フヤウナ極メテ重大ナル場合ニ、訴訟手續ニ慣レナイ本人ガ、一寸何カ一言位陳述ヲ致シタリ、何カ一寸簡單ナル事柄ヲ請求シタト云フ一事ニ依ツテ、直ニ此忌避ノ申立ノ權利ヲ制限スルト云フ事ハ、濫用ヲ認ムルト云フヨリモ、寧ロ此訴訟手續ニ熟練セザル訴訟關係人ノ權利ヲ剝奪スルノ結果ヲ生ズルト私ハ考ヘル、訴訟手續ニ慣レテ居ル辯護士ニ致シマシテモ、忌避ノ原因ガ存在スルコトヲ知リナガラ、極メテ簡單ナル請求、極メテ簡單ナル陳述ヲスルト云フコトハ決シテ無いトハ限リマセヌ、又ソレデシタ方ガ、偏頗ノ裁判ヲ爲ス處分事情ヲ確ムル上ニ於テ、却テ好都合ナル場合ガ存在スルト私ハ思フ、ソレヲ何カ一寸切掛ケニ一言、二言請求、若クハ陳述シタト云フコトデ、直ニ偏頗ノ裁判ヲ受ケルト云フ、司法權ノ威信ニ關スル問題ヲ制限シテ忌避權ヲ制限スルト云フ事ハ、忌避權ノ濫用ヲ制限スルト云フヨリモ寧ロ當事者ノ過失、若クハ其他ノ輕微ナ事情ニ依ツテ、此重大ナル權利ヲ剝奪スルノ結果ヲ見ルコトガアルト思ヒマス、此故ニ私ハ立法ノ精神ニ付テ疑アルノミナラズ、寧ロ斯ウ云フ規定ハ止メテシマツタ方ガ宜カラウト思フ、現ニ但書ニモ忌避ノ原因アリシコトヲ知ラザ

リシ場合、若クハ忌避ノ原因ガ其後ニ發生シタル場合ヲ認メテ居ルノデアリマスカラ、一寸一言カ一言、發言シタナラバソレデ權利ガ無クナル訴訟法ハ御承知ノ通り一定ノ申立ヲスレバ、ソレデ辯論ヲシタモノト見テ處分權ヲ認メテ居居ル場合ガアリマス例ヘテ見レバ當事者ノ代理人ノ認否ニ關スル問題ノ如キ一旦申立ヲスレバ、ソレデ辯論ニ入ツタモノデ、當事者ガ代理人ヲ認メタモノデアルト云フ解釋ガアル、ソレハ此法律ノ根據ヲ異ニシテ居ルノデアリマス民事訴訟ト、刑事訴訟トソレヲ同等ニ扱フト云フコトハ、私ハ立法上甚ダ當ヲ得ナイト思ヒマス、即チ立法ノ精神ニ付テ質問ヲ致シ、ソレカラ第二ニハ寧ロ創設シテシマツテ、サウ云フ場合モ矢張認メタ方ガ宜カラウト斯ウ云フ考デアリマス其點ノ御答ヲ要求致シマス

○林政府委員 只今職權主義トカ、處分權主義トカ云フ御話ガアリマシタガ、ソレハ成程刑事民事トテハ訴訟物ニ關スル點ニ付テ大變違ヒマスガ忌避ト云フコトニ付テハ、同様に事デアルト考ヘテ居リマス、現行法デハ民事訴訟法ノ規定ヲ刑事訴訟法ニ準用シテ、ソレデヤツテ居ル次第デアリマス、併シ民事訴訟法ノ準用ト云フ風ナ廻リクドイ事ナシニ、直接ニ規定スルノガ宜シイト云フノデ此二十六條ガ現レテ來タノデ、特ニ狹メルトカ云フ意味ハ少シモ無い、明文ニアル通り忌避ノ原因ノアルコトヲ知ラナクテ場合ニハ、後デモ忌避ノ請求ガ出來ル、忌避ノ原因ノアルコトヲ知リナガラ、自ラ訴訟行爲ヲシテ置イテ、後ニナツテ前ノ事ヲ言ヒ出シタリ、忌避ノ申立ヲスルト云フコトデハ訴訟手續ガ混亂致シマス、矢張此儘デ宜シイト考ヘテ居リマス

○橫山(勝)委員 只今御話ノヤウナコトデアレバ、私ハ却テ反對ノ結果ヲ生ジハナイカト思ヒマス、本案ハ陳述若ハ請求ヲシタナラバ、忌避權ガ無クナルト云フコトニナルノハ濫用ヲ防グ爲デアルト言ハレマスガ、若シ斯ウ云フ嚴シイ規定ヲ置キマスルト、却テ忌避ノ申請ガ多クナリハセヌカト思ヒマス、譬ヘテ見レバ被告並ニ辯護人ノ一部若クハ全部ガ法廷ニ現レタル際ニ當テ、偏頗ノ裁判ヲ爲ス虞アリト認ムルトキニ、多數ノ被告人ガアル、多數ノ辯護人ガアル、牽連レタル被告事件デアルト云フ場合ニ、自分一人ノ考ヲ以テ忌避權ヲ行使スルト云フコトハ宜シクナイ、一應考慮ノ上デ、關係人ト協議ノ上デシタ方ガ宜シイト云フ場合ニ、サウハ行キマセヌカラ、裁判官ノ前ヲ引下ルニ當ツテ、一寸十分許リ休憩シテ貰ヒタイ、一寸猶豫シテ貰ヒタイト云フ、サウ云フヤウナ請求若クハ陳述ヲシテモ、ソレデモ忌避權ガ無クナルト言ツテハ、是ハ飛ンデモナイ事デアリマスカラ取敢ヘズ忌避ノ申請ヲシテ置イテ、ソレカラ引下ルト云フコトニナル、サウスルト却テ濫用ヲ防グドコロデナク、能ク

考慮シテ見レバ忌避ノ申請ヲセズシテ済ムモノヲ、取扱ヘズヤツテ置カケレバナラヌト云フ事ニナルト、當局ノ御考ニナツテ居ル所ト、全ク反對ノ結果ヲ生ズルと思ヒマス是ハ私ノ經驗上ドウモ不都合千萬デアルト思フ、一面ニ被告ハ陳述又ハ請求ヲ致シテ居ル、辯護人ガ何ト云フモ被告ガ斯ノ如ク陳述シテ居ルカラ、忌避權ガ無クナル、忌避スルカドウカラ相談スル爲ニ一時閉廷ヲ願ヒタイト云フモ、二十六條ニ依ッテ忌避權ガ無クナル、ソレデハ忌避ノ原因アリト思料シタル者ハ考慮スルコトモナク、取敢ヘズ忌避ノ申請ヲシテ置カケレバ、何モ出来ヌト云フコトニナリハシナイカト思ヒマス、此點ヲ承テ置キタイト思ヒマス

○林政府委員 今御尋ノヤウナ場合デアルナラバ、被告人ハ忌避ノアリシコトヲ知ラナカッタ場合ニ當ルデハナイカト考ヘマス、隨テ此但書ノ適用ノアルコトヲラウト考ヘテ居リマス

○横山(勝)委員 只今ノデハ答辯方足りマセスト思ヒマス、被告人ノ場合ニハ、被告人ト辯護人トニ獨立シテ忌避權ガアル事ヲ認メレバ矢張御承知ノ通り通過シマスガ、假ニ辯護人ハ辯護人トシテ爲シテ宜シイ、被告人ハ出来ヌ、附イテ居ル辯護人ノ其中ノ一人ガ忌避ヲ確知シテ、忌避權ヲ行使セントスル場合ニ、協議ノ結果忌避權ヲ行使シタイト、斯ウ云フヤウナ考ヲ持ツ場合ニ、マサカ裁判官ヲ忌避スル爲ニ協議ヲ要スルカラ、猶豫シテ吳レト言ハレマセヌカラシテ、其他ノ口實ヲ設ケテ辯論ノ延期ヲ申請スル辯論ノ猶豫ヲ求メルト云フヤウナ場合ニ、請求又ハ陳述シタコトニナル、サウ云フヤウナ場合ニモ忌避權ガ無クナルト云フコトニナリマスレバ、先刻私ノ申シタ通り、取敢ヘズ忌避ノ意思表示ヲシテ置カケレバナラヌ、サウデナケレバ一言半句モ喋ルコトガ出来ナクナル、サウスルト當局ノ考ヘテ居ラル、ノトハ、反對ノ結果ヲ生ズルト云フコトニナリマシテ、結局二十六條ノ「請求又ハ陳述」ト云フ文官ノ解釋ニ屬スルカモ知レナイガ、其御説明ヲ願ヒタイ

○林政府委員 二十六條ニハ事件ニ付イテト云フコトガ特ニ入レテアリマスノデ、要スルニ事件其モノニ對スル訴訟行爲ヲシタ場合デアリマス、延期ノ申請ヲシタコト云フヤウナ場合ハ、之ニ這入ラヌ積リデ居リマス

○横山(勝)委員 サウスルト何デスカ、事件ト云フノハ檢事ノ起訴シタル起訴事實、其モノニ關係スル場合ノコトデ、即チ裁判官ノ訊問致シテ居ル事案其モノニ關係スル場合ヲ言フノデアリマシテ、或ハ訴訟指揮權ニ關スル、此閉廷ノ時期ニ關スルヤウナ事ハ、一旦請求シテモ陳述シテモ、ソレハ這入ラスト云フ意味ニ諒解シテ宜シイデスカ

○林政府委員 開廷ノ時期ト云フヤウナコトハ、ソレハド

ウ云フ手續ニナリマスガ、兎ニ角此事件ト云フコトハ、檢事カラ起訴サレタ事件其モノニ付イテノ意味デアリマス、先程申シタヤウニ延期ノ申請ト云フヤウナコトナラバ、無論這入ラスコトニナルドラウト思ヒマス

○宮古委員 一寸今ノ横山君ノ御尋ノ件デアリマスルガ、アトデ疑ノ起ルコトノ無イヤウニ確メテ置キタイト思ヒマス、被告人ガ事件ニ於テ請求又ハ陳述シタ辯護人ハ請求モ陳述モシナイト云フヤウナ場合ニ、辯護人ガ忌避ノ中立ヲスルト云フコトハ出来ナイノデスカ、其場合ニハ被告人ガ陳述又ハ請求ヲシタナラバ、被告人カラ出来ナイノハ勿論、辯護人カラモ出来ナイト、斯ウ云フノデスカ

○林政府委員 被告人ガ忌避ノ原因アルコトヲ知リナガフ、請求又ハ陳述ヲシタ場合デアレバ、其後ニ於テハ辯護人モ出来ナイト云フ意味デス

○横山(勝)委員 サウ致シマス、前ノ御答辯ト一寸矛盾シヤセヌカト思ヒマス、私ハ此辯護人ハ勿論被告人ヲ代表シ辯護權ヲ行使スル者デアリマスケレドモ、一度辯護人ト云フ資格ヲ得タ以上ハ、獨立シテ訴訟行爲ヲ爲スノ權能アルト斯ウ考ヘテ居リマシタカラ、被告人ガ請求又ハ陳述ヲシタル場合ニ、辯護人ガ退廷シテ協議スルト云フヤウナ場合ニハ、矢張忌避權ハアルモノト斯ウ考ヘテ居ラタ次第デスカ、今宮古君ノ質問ニ對スル御答辯ニ依ルト、全然モ代理人ニナツテシマツテ、被告人ガ其處分權ヲ行使セザル場合ニ於テハ、即チ被告人ガ忌避權ヲ行使セザル場合ニ於テハ、其代理人タル辯護人ハ全然何事モ出来ヌト云フ結果ニナルト、辯護人ノ地位資格ト云フモノハ甚ダ制限セラレタルコトニナリハセヌカト思フ、御承知ノ通り被告人ハ自ラ法廷ニ立ツコトヲ強制サレテ居ルニモ拘ラズ、法律ヲ知ラズ、又裁判ノ手續ニ暗イガ爲ニ、獨立シテ訴訟行爲ヲ許シテハ甚ダ不便デアルカラシテ、被告人ノ利益ノ爲ニ辯護人ノ行使ヲ許シテアルノデ、強制辯護人ヲ附スル場合ハ其意味ガ強イ場合、此強制辯護人ノ制度ヲ置カヌ場合ニモ、左様ナ意味ニ於テ辯護人ト云フ者ヲ認メタノデアリマスルガ、是ハ民事訴訟ノ如ク代理人關係ガ無イ、被告人ノ意思如何ニ拘ラズ、或ハ被告人ノ態度如何ニ拘ラズ、被告人ノ意思ニ反セザル限りハ、被告人ト獨立シテ其職務ヲ行フコトニ依ッテ、初メテ辯護制度ノ目的ヲ貫徹スルコトガ出来ルト思フノデスカ、只今ノ御説明ニ依ルト、一面ニ於テハ辯護人ト被告人トハ意思ヲ異ニシ、感情ヲ異ニ致シテ居ル、辯護人ハ被告人ノ後部ニ在ッテ忌避ノ原因アルコトヲ知ッテ、之ヲ他ノ辯護人ト協議シツ、アルニ、被告人ハソレヲ知ラズシテ、其被告事件ニ付テ或ハ證人ノ申請ヲシ、或ハ自己ニ利益ナル陳述ヲ致シテ居ル、斯ウ云フ場合ニ、辯護人ガ其以前カラ忌避ノ原

因ヲ知ッテ居タ場合ニモ忌避權ハ無クナル、斯ウ云フコトニナツテ、辯護制度及忌避ノ制度ニ通ジテノ缺點デハナイカト思ヒマス、ソレヲ一應明確ニ致シテ置キタイ

○林政府委員 忌避ノ請求ニ關スル辯護人ノ權利ヲ獨立權ニスルガ宜シイカ、或ハ代理權ガ宜シイカト云フ點ニ付テハ、前ニドナタカノ御尋ノ際ニ御答シテアリマス通りデ、此案ニ於キマシテハ忌避ノ請求ニ付テハ、辯護人ハ代理權トシテ之ヲ行ッテ宜シイ、斯ウ云フ主義ヲ採ッテ居リマス、其結果先程御答シタヤウナコトニナリマス、次第デアリマス

○横山(勝)委員 サウスルト今一應確メテ置キマスガ、辯護人ト被告人トノ關係忌避ノ申請ニ關シテハ代理人關係ト見做スト、斯ウ云フ意味ニ諒解シテ宜シイヤウナ只今ノ御答辯デアッタヤウデスカ、サウスルト只今御話ノ他ノ委員ニ對シテノ御答辯ハ、不肖能ク存ジマセヌガ、サウナルト今申上ゲタヤウニ訴訟手續ニ熟練セザル被告人ハ、之ガ爲ニ非常ニ不利益ナ位置ニ陥ル、即チ始メテ裁判法廷ニ立ッテ者ガ、威嚴正シキ法廷ニ於テ、裁判官ノ嚴正ナル訊問ヲ受ケテ居ルト云フ際ニ、ドウモ果シテ偏頗ノ裁判ヲ爲スモノデアアルカドウカト云フコトノ鑑識ヲ造ルト云フコトハ、事實ニ於テ困難アルノミナラズ、知識ノ程度ニ於テモ又經驗ノ點カラ見テモ、サウ云フ事ハ、絕對ニ考ヘヌ場合ガアラウト思フ、事實ニ存シテ居ッテモ之ヲ考ヘルコトノ出来ナイ場合ガアル、之ガ爲ニ辯護制度ヲ認メテアルノデアリマス、所ガ此忌避權ヲ行使スル場合ニ偏頗ノ裁判ヲ爲ス場合ト云フモノハ、屢々、申上ゲマシタ如ク、被告人ノ辯護權ノ爲ノミナラズ司法權ノ威信ニ關スル問題デアル、サウ云フ場合ニハ寧ろ辯護權制度ノ精神ヲ貫ク意味ニ於テモ、獨立ノ資格ヲ認メテ被告人ノ意思如何ニ拘ラズ、被告人ノ態度如何ニ拘ラズ、辯護人ガ進ンデ忌避ノ申請ガ出来ルト云フコトニスルノガ、私ハ此進歩シタル法案ヲ作ル今日ノ場合、サウナケレバナラヌト考ヘル、而シテ是ガ只今政府委員ノ御説明ノヤウナ事情デアルトスルナラバ、現行法トハ意味ガ違フコトニナリハシナイカ、現行法ハ被告人ノ意思如何ニ拘ラズ、辯護人ハ獨立シテ忌避ノ申請權ガアルヤウニ考ヘテ居リマスガ、果シテサウデアリマスカドウカ

○林政府委員 本案ハ其點ニ付テモ現行法ヲ變更シテ意味ハ無イ、現行法モ同様デアルト解釋致シテ居リマス、而シテ御尋ノヤウニ、被告人ガ立ッテ陳述シテシマツタ云フ場合ニハ、二十六條ノ但書ニ當ルコトニナルカラ、辯護人ノ忌避權ノ行使ト云フモノガ、妨ゲラル、ト云フ結果ハ起ルマイト思フ、此條文通りデ實際ニ少シモ妨ナイコト、考ヘテ居リマス

○橫山(勝)委員 アトハ議論ニナリマスカラ、ソレデ宜シ
ウゴザイマス

○鶴澤委員 次ハ二十七條

○橫山(勝)委員 便宜上此二十七條ト、ソレカラ二十八條
ト、之ヲ牽聯シテ質問スルコトヲ御許シテ願ヒタイ

○鶴澤委員 宜シウゴザイマス、二十七條、二十八條共ニ
議題ニ供シマス

○橫山(勝)委員 此二十七條ニ依レバ、合議裁判所ノ判事
ニ對スル忌避ハ、判事附屬ノ裁判所ニ之ヲ爲ス、ソレカラ受
命判事、豫審判事、區裁判所判事ニ對スル場合ハ其判事ニ爲
ス、ソレカラ二十八條ノ規定ニ於キマシテ、合議裁判所ノ判
事ガ忌避セラレタ場合ハ、其裁判所ノ決定ニ一任シテアル、
ソレカラ豫審判事ノ場合モ、其判事所屬ノ裁判所、區裁判所
ノ判事ガ忌避セラレタ場合ハ、管轄地方裁判所、斯ウ云フ規
則ニナリテ居リマス、要スルニ私二十七條、二十八條ニ通ジ
テ質問シタイ點ハ、兎ニ角言葉ヲ平たく申セバ、其裁判官ノ
居ル裁判所デ忌避ノ申請ヲ受ケ、ソレカラ忌避ノ裁判ヲス
ル、是ハ便宜上カラ申シマス、東京ノ如キ或ハ大阪ノ如
キ大キナ裁判所デ、多數ノ裁判官ガアリマス裁判所ニ於
テハ、或ハ便宜デアラウト思フ、又強テ他ノ裁判所ニ持ッテ
行ク必要ハナイカモ知レマセウガ、併ナガラ忌避ノ裁判ハ、
先刻來私ノ質問及司法當局ノ御辯明デ分テ居ル通り、兎ニ
角重大ナ問題デアアル、刑事訴訟法ヲ三十年間運用シ來ッテ忌
避ノ申請モ數多アルダラウト思ヒマス、併ナガラ
事件ノ數カラ云ヘバ極メテ少イ、地方ノ裁判所ニ行ケバ、一
年僅カ一二件ニ過ギナイ、東京ノ如キ、大阪ノ如キ多數ニ取
扱フ裁判事件ニ付テハ連日忌避ノ申請ガ行ハレモノ、而
ハナイ、事件全體カラ云ヘバ餘リ多クアルモノデハナイ、而
シテ先刻來御答辯ノ如ク、刑事訴訟法實行以來偏頗ノ裁判
ヲ爲ス虞アリトシテ、忌避ノ裁判ノ立ッテ例ハ殆ド無イノデ
アリマス、何カ方面上茲ニ之ヲ設ケルコト云フ原則ヲ立テラ
レテ居ル、是故ニ當事者ノ忌避權ト云フモノハ、本人ノ地位
カラ申シテモ、司法省全體ノ威信ノ上カラ言フテモ極メテ重
大ナ事柄デアリマス、既ニ偏頗ノ裁判ヲ爲ス虞アリト
シテ、疑ノ眼ヲ以テ訴訟手續ヲヤル場合ニハ、之ニ對スル裁
判ハ最モ公明正大デナケレバナラスト私ハ考ヘル、其忌避
ノ申立ニ關スル、公明デアアルコト云フ事柄ヲ保障スルモノハ
何デアアルコト云フ、其裁判所若クハ其裁判官ノ關係ナキ
裁判官ガ之ヲ爲スト云フコトガ、私ハ最モ公平ナルコトヲ
天下ニ示ス所以デアルト考ヘル、勿論裁判官ガ毎日机ヲ
列ベテ職務ヲ執ッテ居ルトハ申シナガラ、情實ニ依ッテ偏頗
ノ裁判ヲ爲スコトモアリマスガ、併ナガラ元來忌避ノ裁判
ト云フモノハ、當事者ノ疑ガ本ニナルノデアアル、當事者ガ裁

判官ノ行爲ニ對シテ疑惑ヲ持ツノガ忌避申請ノ原因ニナル
ノデアリマス、ソレヲ裁判スルノニ同ジ裁判所ノ裁判官ガ
ヤッデ、イ、加減ナ裁判ヲシタノデアラウト云フ疑ノ眼ヲ以
テ見ラレルトハ、司法權ノ爲ニ洵ニ遺憾ノ點デアリマス、是
故ニ合議裁判所デアラウガ、豫審裁判デアラウガ、苟モ忌避
ノ申立ヲスル、其權利ヲ承認スル以上ハ、他ノ裁判所ニ於テ
之ヲ爲ス、若クハ上級裁判所ニ於テ爲スト云フコトヲ原則
トシタガ、私ハ此忌避ノ制度ニ對スル立法ノ精神デアアル
ト考ヘマス、又從來吾々モ忌避ノ申請ニ對スル裁判ト云フ
モノニ付テハ常ニサウ考ヘテ居ル、ドウモ第一刑事部ノ判
事ニ對シテ申請シテモ、第二刑事部ノ裁判官ガ之ヲ裁判
シタノデハ、冷靜ニ考ヘレバ公平デアッテモ、元來疑ノ眼ヲ
以テ忌避ノ申請ヲシタル人民側カラ見レバ、同ジ裁判所ノ
裁判官ガヤッタノデハ面白クナイト云フ考ヲ持ツノハ、人情
當然ノ事デアリマス、是故ニ裁判官ノ裁量度ガ認メラレテ居
ルノデアアル、審級制度ノ理由ハ此ニ在ル、甲ノ裁判所ノ裁判
官ノ爲シタル裁判ニ不服ガアレバ、他ノ上級裁判所ニ持ッテ
行ッテ裁判ヲ受ケル、是ガアッテ始メテ裁判所ノ信用ガ維持
サレルノデアリマス、所ガ忌避ノ申請ニ限リテ其所屬ノ裁判
所デ裁判ヲスル、ソレカラ申立テ受ケテ又裁判ヲスル、斯
ウ云フ二十七條二十八條ノ規定ハ全ク忌避權ヲ認メル立
法ノ精神カラ見テ、不都合デアラウト思ヒマス、或ハ頻々
フコトハ、勞力費用ノ點ニ於テ遺憾ノ點モアリマス、是
ハ極メテ例外的デ、極メテ稀ニ起ル事件デアリマス、寧
ロ私ハ立法ノ精神ヲ擴張シテ、公明正大ナル裁判ヲシタト
云フコトヲ人民ヲシテ知ラシムル、擔保ノ方法トシテハ、上
級裁判所若クハ他ノ裁判所ニ移スト云フコトガ、立法ノ精
神ニ適スルト思ヒマスガ、此兩條ノ立法ノ理由ニ付テ伺ヒ
マス

○林政府委員 サウ云フ事ノ御話ノ趣旨ハ、一ノ御考デア
ルトシテ傾聴ハ致シマシタガ、併シ忌避サレタ判事ガ全然
其忌避ノ申請ニ付テ關係シナイ、全ク別箇ノ人ガ裁判ヲス
ルコトニナルノデアリマス、其裁判ヲスルニ於テ、同ジ
裁判所ニ居ルカラ情實ガアッテ間違ッテ裁判ヲスルト云フコ
トハ、ドウモ考ヘルトコトガ出來マセウ、矢張本案ノ通りデ、
實際上差支ナイコト、考ヘテ居リマス

○橫山(勝)委員 サウ云フ御意辯デアラナラバ、是ハ私ト
意見ヲ異ニ致シマス、意見ニ付テハソレデ宜シウゴザ
イマスガ、先刻ノ第二十五條ノ質問ヲ致シマスル場合ニ申
シタ如ク、被告並ニ辯護人側カラ屢ニ忌避ノ申請ヲシテモ、
忌避ノ裁判ト云フモノハ、必ズ忌避申請人ノ敗訴ニ終ル、此
事情ハ司法當局モ御認メニナッテ居ルコトデアラウト思ヒ

マス、此忌避ノ申請ガ裁判所ニ於テ採用セラレザル原因ハ、
先刻モ一言致シマシタ如ク、感情ノ強キ被告人並ニ事理ニ
疎キ辯護人ガ、鑑識ヲ誤ッテ爲ス場合ガ多イカラデアルト云
フコトヲ認メラレテモ仕方ガナイ、現制度ノ下、現法律ノ下
ニ取扱ハレル忌避ノ申請ニ對シテ、裁判ト云フモノハ、私共サ
ウ認メテ居ル、辯護人ノ忌避ノ申請ニ對シテモ、多クハ却下
サレテ居ルノデアリマス、司法當局ノ眼ニ於テハ、此法
律運用ノ上ニ於テ、裁判官ノ方ガ正當デアッテ、被告人辯護
人ノ方ガ鑑識ヲ誤ッテ居ルデアラウト見ラル、デアラウ、又
吾々モサウ云フ風ニ見ラレテモ仕方ガナイト思ウテ居リマ
ス、併ナガラ其鑑識ヲ過ッタト云フコトガ、敗訴ノ一ノ原因
デアアルコトハ私ハ敢テ爭ハヌ、併ナガラ能ク御考ヲ願ハナ
ケレバナラヌノハ、從來刑事法廷ニ於テ忌避ノ申請ノ起ッ
タ場合ハ、吾々ハ他ノ事件ノ事ハ、新聞其他ニ依ッテ之ヲ傳聞
シ、自己自ラ經驗シタル場合ハ、自己自ラ鑑識ヲ以テスル
デアリマスガ、多クハ忌避ノ申請ヲ爲スベキ事情ガアルノ
デス、特ニ吾々後進ノ者ガヤッタト云フナラバ、一應第三者
ノ非難ヲ受ケマシテモ已ムヲ得マセウケレドモ、堂々タル閱
歷ヲ持シ、學識ヲ有シテ居ラル、第一流ノ辯護士ト謂ハレ
ル大家ノ人々ニシテ、屢々此忌避權ヲ行用セラレタ場合ガア
ル、中央ノ裁判所ニ於テハ勿論ノコト他ノ裁判所ニ於テモ
屢々之ヲ實現スルノデアリマス、書生上リノ辯護士ガ面白
半分ニヤルト云フヨリハ、寧ロ若イ裁判官ガ大家ノ辯護士
ニ對シテ、無禮ノ態度ヲ執ッタト云フヤウナコトデ、忌避ノ
申請ガ起ルヤウナ場合ガアルコトヲ聞キマス、併シ其取扱
振ノ惡イノミデ、一流ノ大家先生ガ忌避ノ申請ヲスルコト
ハアリマセウ、ソレガ原因トナリ、果トナリ、副因トナッテ忌
避ノ申請ヲスル、斯様ナ場合ガアルニモ拘ラズ、必ズ民間ノ
者ノヤル忌避權ヲ拘束スルト云フコトハ、制度ノ上ニ於テ
ハ已ムヲ得ストシテ、法律運用ノ上ニ於テ已ムヲ得ストシ
テモ、之ヲ第三者ノ位置カラ見テ、人民ノ側ガ惡イト云フ判
斷ヲスル事情ハナイト思フ、サウスレバ他ノ原因ハ之來其
裁判所ノ裁判官ガ判斷スルカラデアアル、甲ノ判事ガ忌避
セラレテ、其裁判ヲ受ケルノハ矢張其裁判所デアアル、判決ヲ
爲スノモ其裁判所デアアル、茲ニ於テ疑ガ起ッテ來ル、ドウモ
忌避ノ原因ガ十件アッテモ二十件アッテモ、ソレガ立ッタクコト
ガ無イト云フノハ、同ジ裁判所ガ申請ヲ受ケテ、同ジ裁判所
ノ裁判官ガ判斷スルカラデアアルト私ハ認ムルノデアアル、
是ハ決シテ私ノ妄斷デハナイ、現行法ノ規定ニ於ケル、進級
制度ニ依ッテ裁判スルト云フコトモ一ノ理由、大審院ニ於テ
刑事ノ事件ヲ判決シタ場合ニ、他ノ裁判所ニ廻スノモノ一
理由デアアル、御承知ノ通り輕微ナル事件ニ於テハ、餘リサウ
云フ事ハアリマセウガ、少シク世間ノ耳目ヲ惹ク事件ニナ

リマス、裁判所ニ與論空氣ガ出來マス、日糖事件デハ彼奴ハ不都合デアル、疑獄事件デハ彼奴ガ賄賂ヲ取ツタト云フヤウナコトハ、裁判官ガ秘密ヲ漏洩セルト云フ意味デハナイガ、裁判官同士、檢事同士ノ間ニ一ノ輿論空氣ガ出來ル、其様ナ場合ニ於テハ他ノ裁判所ニ移シテ、更ニ公平ナル裁判ヲセシムルト云フコトガ現行法ノ精神デアル、殊ニ忌避ニ付テハ其必要ガアルト思フ、甲ノ法廷裁判事ヲ辯護士ガ衝突シテ忌避ノ申請ガ起ル、ソレハ辯護ガ惡イト見ルニ違ヒナイ、裁判官ガ惡イト言ハル、氣遣ハナイ、辯護人ノ側デハ裁判官ガ惡イト言フ、ソレデ辯護士ノ方ニモ空氣ガ出來ル、此忌避ノ裁判ヲ辯護士ノ請所ノ方ニ持ッテ來レバ、裁判官ガ負ケデアル、裁判所デアルト民間ノ方ガ負ケデ、裁判官ガ勝ツ、是ハ何ト云フモ掩フコトノ出來ナイ事實デアル、ソレデ忌避ノ立タザル理由ハ、同一ノ裁判所ガ裁判スルト云フコトニ弊害ガアルト思フ、此意味カラ中シマス、此進歩シタル立法ニ參與セラル、以上ハ、此所ハ改正ヲ要スル點デアルト思ヒマス、而シテ之ヲ改正ラシタナラバ、恐ラク忌避ノ裁判ガ立ツヤウナ場合ガ出來ルト思ヒマス、立ツコトハ法治下ノ爲ニ遺憾デアリマスガ、立ツベキ忌避ノ原因ガアルニモ拘ラズ、同ジ裁判所デ裁判スルカラ立タススト云フコトハ、司法權ノ威信ヲ傷ケルコトノ最モ大ナル狀態デアリマス、私ハ此點ハ二十七條、二十八條ヲ通ジテ、寧ロ修正セラレベキモノト考ヘマス、此故ニ他ノ機會ニ於テ發言スル機會モアリマセウガ、兎ニ角此點ニ付テ詳細ナル御辯答ヲ承ッテ置キタイ

○林政府委員 同一ノ裁判所デ忌避ノ請求ノ裁判スルカラ、ソレ故ニ忌避ノ請求ガ立タス、斯様ナ御話デアリマスガ、ドウモ私ハサウ云フ事ハアルマイト考ヘマス、現ニ區裁判所判事ニ對スル忌避ノ請求ハ、地方裁判所デ裁判スルノデアリマス、ソレカラ又地方裁判所判事ニ對スル場合デモ、其地方裁判所ノミデ済ムコトデアリマセヌ、上級審ノ裁判所ニ於テ判事ヲ受クルコトガ出來マス、上級裁判所デモ忌避ノ請求ニ付テ裁判スルトキデモ、立タススト云フコトデアリマシタガ、其點ハ能ク分リマセヌガ、サウスレバ同ジ裁判所デ裁判スルカラ立タススト云フ論ハ、事實ニ於テドウカト考ヘマス、此條文ハ實際上是デ適當デアルト考ヘマス

○横山(勝)委員 ソレハ抗告ヲ致シテモ立タカ例ハ無イノデアリマスカラ、御考慮ノ中ニ入レテ置イデ戴キタイ、ソレ以上ハ議論ニナリマスカラ——要スルニ民間ニハ斯ノ如キ意見ヲ持ッテ居ルト云フコトダケヲ中シタノデアリマス、十數年間刑事法廷ニ出入ラシテ私ノ得テ智識經驗カラ中シタノデアリマス、ソレ以上ハ後ノ機會ニ譲リマス、進ンデ御尋致シタイノハ、第二十七條ノ規定デアリマス、第三項ニ之

ヲ疏明スヘシトアル、此疏明ト云フ事ノ意味ト、ソレカラ其意味ノ如何ニ依ッテハ、是非非常ニ無理ナ事ヲ忌避ノ申立人ニ強ニ規定ト思ヒマス、其譯ハ偏頗ノ裁判ヲ爲スコトヲ疑フニ足ルベキ事情ヲ疏明セヨト言ハレテモ、ドウシテ疏明シテ宜イカ、此疏明ノ方法ガ無イ、偏頗ノ裁判スル虞ノアル場合、裁判所書記ガ其記録ニ留メルト云フコトハ絶對ニアリマセヌガ、時々法廷ニ於テ辯護人ノ側カラ、不都合ノ申立陳述ヲ致シタル場合ニ檢事ガ要求スルコトガアッテ、書記ガ其陳述ヲ調査ニ記載スル例ハアリマスケレドモ、偏頗ノ裁判ヲセラル、ト云フ場合ニ之ヲ辯護人ノ調査ニ記載シテ要求シテモ、從來裁判所ガ承認シタル例ハアリマセヌ、此忌避ノ申請ヲスルト云フ場合ハ、多少官民ノ間ニ險惡ノ空氣ヲ醸シテ居ル場合デアリマスカラ、其申立ヲ承認スル道理ハ無イ、尤モ證人ノ陳述トカ、參考人ノ陳述ト云フヤウナモノハ、要求ニ依ッテ記録ニ記載セラルル場合モアリマスガ、今將ニ人民ノ側カラ忌避ノ申請ガ出ヤウト云フ險惡ナ場合ニ、ソレヲ調査ニ載セヤウトシテモ、裁判官ガ承認スル道理ハ無イ、斯様ナ訊問ヲシタカハ偏頗ノ裁判スル虞ガアルトシテ、ソコデ吾々ノ方デ如何ニモアレハ不都合ダト云フノデ忌避ノ申請ヲシ、却下如何ニモアレハ不告ヲスルト云フ、斯ウ云フノデスキレドモ、其事情ト云フモノハ、證明スルコトガ出來ナイ、書面ヲ以テ證明セヨト云ッテモ、書面以外ニ何カ證據ノ要スル場合、立會シテ居ラル、檢事ノ訊問ヲ要求シテ居ルトカ、立會シテ居ル書記ヲ訊問スルトカ、立會テ居ル他ノ辯護人ヲ證人ニ申請スルコトカ、立會テ居ル初テ是ハ裁判ノ原因及其實質ヲ立證スルコトガ出來ル、其他ニ書面ヲ以テ立證セヨト仰シヤッテモ、書面デ立證スル方法ガ無イ、殊ニ疏明ト云フコトハ、是ハ確カ普通ノ證據方法トハ違ヒマシテ、即時ニ爲スコトヲ得ベキ證據方法ニ據ルト云フ制限ガアルト私ハ記憶致シテ居リマス、サウスルト何デモ彼デモ書證ヲ持ッテ行カナケレバナラス事ニナル、疏明ト云フ以上ハ——サウスルト辯護人ト裁判官トノ間ニ衝突ヲ生ズル、彼ノ態度ハ不都合デアアル、實ニ偏頗ト云フ事ガアッテモ、疏明ヲスル方法ガ無イカラシテ、サウ云フ事實ノ疏明ガ無イカラト云ッテ却下サレテ居ル例ガ澤山アル、一面ニ於テ忌避權ハ認メタケレドモ、忌避權ノ證據ト云フモノヲ制限致シテ居ルガ爲ニ、何時モ辯護人ノ側、被告人ノ側ガ敗訴ニ終ルト云ウ事ハ、先刻中上ダタ同ジ裁判所ガ裁判スルト云フ以外ニ一ツノ此處ニ原因ガアルト私ハ思フ、原則トシテハ忌避權ヲ認メテ居ルケレドモ、斯ウ云フ陰ニ隠レテ居ル規定ガアッテ、其處デ差引ガ付キヤウニナッテ居ル、忌避權ノ大部分ノ効果ト云フモノハ、之ヲ疏明スベシト云フ規定ニ依ッテ、殆ド其效果ハ無クナッテシ

マフ、是ハ恐ラク司法當局ニ於テモ審議ノ際ニ御考慮ヲ煩ハサレタ點デアルト思ヒマス、從來屢ニ是ハ問題ニナッテ居ル事デアリマス、此故ニ疏明ト云フ意味如何、疏明ト云フ意味ハ今私ノ申上ダタヤウナ意味デアルトスルナラバ、誠ニ忌避ノ申請ト云フモノハ價值ノ無イモノデアアル、此故ニ證據方法トシテ何カモット輕便ナル方法ハ無イモノデアリマセウカ、無論賢明ナル諸君ノ御審議ニナツタコト、私ハ諒承致シマス、之ヲ後ノ爲ニ承ッテ置キタイノデアリマス

○林政府委員 只今御尋ノ點ハ、若シ忌避ノ原因ヲ疏明シ、斯ウ云フコトデアレバ酷デアルト云フコトハ、御話ノ通りデアリマスガ、疏明ト云フノハ、私ヨリ申スマデモナク非常ニ是ハ廣イ事柄デアリマシテ、證據方法ヲ出サウニ限定スル意味デハナイ、要スルニ裁判官ヲシテ信用セシムル材料サヘ出セバ、材料ニハ何モ制限ハ無イ、證據ト云フコトニナリマス、法律上制限ガアリマスカラ、非常ニ窮蹙ニデアリマスケレドモ、疏明ト云フ場合ニハ全ク制限ガナイ、ソレデアリマスカラ、此疏明ト云フコトガアルカラ、忌避權ノ行使ニ非常ニ妨ガアルト云フコトハ、ドウモ了解致シ難イ、且ツ荷クモ忌避ノ請求ヲスル以上ハ、忌避ノ請求スル原因ガアツタト云フコトヲ、裁判官ニ一應信用スルダケノ程度ニ於テ申立ヲスルト云フコトハ、是ハ當然ノ事デアル、書面ヲ以テ證明スベシト云フコトハ、書面ニ書イテ出セト云フダケノコトデアッテ、書面ニ其事ハ誰ニガ知ッテ居ルト云フコトヲ書イテモ宜シイ、サウ云フコトヲ書イテ出シマスレバ、忌避申請ニ付テ決定スベキ裁判所ニ於テ、必要ヲ認メレバ之ヲ調ベルト云フコトニナルノデアリマス、ドウモ今御尋ノ點ハ、此規定ガアルガ爲ニ忌避權ノ行使ガ妨ガレルト云フヤウナコトニハ、斷ジテナルマイト考ヘマス、

○横山(勝)委員 此證明方法デアリカラ、ドンナ證據デモ出セルト云フ其意味ハ、政府委員ノ御意見ト一致致シテ居リマス、其意味ニ於テハ、是ハ證據方法ハ極デ廣イ證據方法デアアル、極デ寬大ニ扱ハレテ居ル方法デアアル、即チ裁判官ヲシテ一應審議セシムベキ證據デアレバソレデ宜シイ、證據ノ具ニ供セラル、ガ如キ極デ嚴正ナル確定的ノ證據ナクモ、極デ粗雑ナルモノデモ、證據トシテ許スノデアアル、其方ハ證據方法ガ——疏明ノ方ガ廣イト云フ御議論ハ、ソレハ私モサウ諒解致シテ居リマスガ、此疏明ト云フ事ハ、提出ノ時期ニ制限ガアル、即時ニ爲ス證據調ヲ爲スコトノ出來ルモノデナケレバイケナイ、一般ノ證據方法ハ之ヲ裁判官ニ申出テ、裁判所ノ決定ヲ得テ、裁判所ガ強制力ヲ用テ證據方法ヲ爲スコトガ出來ル場合ハ、ソレハ的確デアアルケレ

ドモ、時間ヲ要スル、此疏明ト云フ方ハ、サウ云フコトヲ決定爲サズシテ、直ニ出來ル場合ヲ言フト云フ制限ガアリマス、今直グ持テ來イト云フ、此故ニ假差押、假處分ノ申請ヲ致シマス時分デモ、御承知ノ如ク斯ウ云フ證人ヲ御訊問ニナレバ、直ニ假處分並ニ假差押ノ原因ハ判ルカラト云フコトヲ申シテモ、裁判所ハソレハ疏明デ宜イノダ、又疏明デアルコトヲ要スルノデアルカラ、證人ガ居レバ伴レテオイデナサイト、斯ウ仰シヤル、所ガ假差押ヲスルカラ、其證人ニナレバ、申シマシタ所ガ、餘程日當ヲ拂ヘバドウカ知リマセヌガ、宜シイト言ウテ喜ンデ來ル者ハナ、其他再審ノ場合デモサウデス、疏明セヨトアルカラ非常ニ困ル、即時ニ爲スベキ證據方法デアルト云フコトハ、是ハ學者ノ說モ一致シテ居リマス、ソコデ忌避ノ申請ニ付テサウ云フノデス、證據方法ヲ何デモ許サレト云フコトハ、疏明ノ方ガ便利デ宜シ、廣クテ宜シウゴザイマスガ、之ヲ提出スル時期ニ付テ、非常ニ制限ガアルカラ、ソコデ結局此證據ヲ出スコトガ出來ナイコトニナル、即チ忌避ノ申請ヲシテモ甲ノ裁判所デ忌避ノ申請ガアツタ時ニ、其處ニ立會シテ居ル書記ヲ伴レテ行クコトハ便利デアリマス、ソコデモ、ドウモ裁判官ノ忌避ノ申請ヲスル材料ニ、立會ノ書記ヲ伴レテ行クコトハ出來ヌ、辯護人ヲ伴レテ行ケバ宜イガ、ソレハ書面ヲ以テ申立テロト云フカラ、其處ニ不便ガアル、ソコデソレハ普通ノ證據方法ニナレバ、デアリマス、從來吾々ハ疏明方法ハドウスルカト云フト、一件記錄ニ依テ明瞭ナリトナルヨリ外ハナ、一件記錄ヲ見テ、裁判ノ方デハ、又左様然ラバノ裁判一件記錄ヲ見タケレドモ、毫モ偏頗ノ裁判ヲ爲スベキ處ノアルコトヲ疑フベキ事情ガ無イト云テ居ル、出ス方デハ然ラバ偏頗ノ裁判ヲ爲スベキ事情ハ無イカト云フト、事情ハアルノデス、隨分惡辣ナル不當ナル訊問ヲシテ辯護人ガ異議ヲ言フ、險惡ナル空氣ガ生ジテ忌避ヲ申請スルコトガアルガ、書面ヲ以テ忌避ノ申請ヲセヨト言フテモ、出シヤウガナ、公判ノ始末ハ公判ノ始末書ニ依ッテ學デラレノデスガ、他ノモノハ許サナイコトニ法律ガナッテ居ル、證據方法ノ廣イ點ニ於テハ、林君ノ御話ト私ノトハ一致シテ居リマス、ケレドモ、提出ノ時期ニ制限ガアルガ爲ニ、是ハ有名無實ニ終ルト云フコトヲ申シテ居ルノデアリマス、ソコデ是ハ見解ノ相違デハナ、實際法文ノ缺點ト思ヒマス、ソレヲ何トカ緩和スル方法ハアリマセヌカ、之ヲ聽イタノデス

○林政府委員 確カリシタ證據方法ヲ提出セヨト云フコトデアレバ、隨分困難デアルト思ヒマスガ、疏明ヲシト云フ事デアリマス、カヲ疏明ト云フコトハ極メテ是ハ樂ノ事デアリマシテ、今ノ御話デハ、即時ニ爲スコトノ出來ナイ證據調

ハイカス、斯ウ云フ事デアリマス、ケレドモ、ソレハ民事訴訟法ニ特別ノ規定ガアル爲ニ出來ナイ、民事訴訟法ハ即時ニ爲ス、疏明ノ方法ハ許サヌ、刑事訴訟法ニハサウ云フ制限ガ無イノデアリマス、ソレデアリマス、非常ニ是ハ廣イ譯ニナッテ居ル、此故ニ證人何某ガ之ヲ知ッテ居ルト云フ斯ウ云フコトヲ書ケバ十分疏明ニナリマス、今ノ御話ノ様ニ一件記錄ニ依ッテ疑明スルト書クコトモ出來マス、其位ノ事ハ三日掛カレバ十分デアリマス、裁判所ガ必要デアレバ事實ヲ調べル爲ニ有ユル方法ヲ執ルノデアリマス、差支ナイト考ヘマス

○横山(勝)委員 私人疏明ト云フ意味ハ、民事訴訟法ノ意味ト同ジグト解釋シテ居リマスガ、ソレハ民事訴訟法ニハ即時ニ爲スコトヲ要スルコト云フコトガアル、本法ニハソレガ無イカラ、之ヲ爲スコトハ必要ガナ、イト云フコトデアレバ此民事訴訟法ノ疏明ト云フ意味ト、此疏明ノ意味トハ意味ガ違フノデアリマス、意見ノ相違ハ留保致シテ置キマス、サウスルト進ンデ伺ヒタイノハ、忌避ノ申請ヲ爲シテ立會ッテ居ッテ書記何某、立會ッテ居ッテ辯護人何某、法廷ニ立會シテ居ッテ看守某、法廷ニ職務ヲ持ッテ居ッテ、新聞記者某、斯ウ云フ者ガ偏頗ノ裁判ヲ爲スベキ事情ヲ知ッテ居ルカラ、之ヲ調ベテ與レト云フコトガ、之ガ疏明ニ當リマス、カドウカ、假リニ當ルトスレバ、ソレヲ御調ベニナリマス、カ

○林政府委員 前段御尋ネノ通りデアルト考ヘマス、其調ベルカドウカハ、裁判ノ請求ニ付テノ管轄裁判所ノ職權ニ屬スルト考ヘマス

○横山(勝)委員 裁判所ガ疏明ヲ調ベルコトハ職權デ、如何ニ之ヲ言論ノ制限致シマセウガ、已ムラ得ヌ次第デアリマスガ、法律ノ規定ニ於テ疏明方法ヲ申出デルコトガ出來マス、ケレドモ、後デソレヲ調ベルカドウカハ、裁判所ノ自由デアルト云フコトニナリマス、偏頗ノ裁判ヲ爲ス處ガアルトシテ、辯護人ガ疏明ヲ申出デタ所ガ、裁判所ニ於テハ其疏明ヲ取調ベナイト云フコトニナルト云フト、職權デアアルカラ仕方ガナ、イト云ヘバ、茲ニ忌避ノ原因ヲ法律自ラ拵ヘル、忌避權ノ原則ヲ立テ、モ、裏ニ忌避ノ立タナイ原因ヲ法律自身ガ拵ヘテ居ルト、表看板ハ立派デアルケレドモ、裏ニ廻ッテ見ルト忌避ノ效力ガ無、從來忌避ノ裁判ハドウカ存ジマセヌガ、吾々モ疏明ヲ取調ベニナッテコトガアリマス、例ヘテ見マスレバ、刑事訴訟ハ職權主義デアアル、假ニ辯護人ガ申出デテ、斯ウ云フ職權ニ依ッテ裁判所ガ辯護人ノ申立ッテ場合ニ、辯護人ガ假ニ之ヲ申出デルトシテモ其席ニハ何ト云フ辯護士ガ居ッテ、何ト云フ新聞記者ガ居ッテ、何ト云フ書記ガ居ッテ、何ト云フコトガ、裁判所デ分ル答デアリマスカラ、自ラ進ンデ御調査ニナラナケレバナラス

ガ、サウ云フコトガナ、サウシテ一件記錄ニサウ云フ事ガ無イト云フコトデ、今マデ取扱ハレテ居タノデアル、若シ疏明ト云フ意味ガ何デモ彼デモ申出デレバ、之ヲ許ス精神デアアルカドウカ、職權ト云フダケデ満足ガ出來ナイ、職權デ宜イト云フコトニナレバ、裁判官ハ如何ナル場合ニ於テモ取調ベラシマセヌト云フコトニナルト、二十五條ノ規定ノ意味ハ全然抹殺セララル譯デアリマス、デアリマス、カ、是ハ私ハ矢張事實ノ申出ラシテ、サウシテソレノ適切ナル疏明方法デアッタラバ、裁判所自ラ進ンデ決定ヲ致シテ、立會ノ辯護人トカ新聞記者トカ、書記トカヲ調ベル事ヲ許サレルヤウニシタイ、果シテソレガ出來マセウカ

○林政府委員 本案ハサウ云フ主義ニ依ッテ立法サレタノデアリマス、併ナガラ當事者カラ疏明ノ方法トシテ澤山ノ申出ラシタ場合ニ、全部ソレヲ調ベルカドウカト云フコトハ、ソレハ管轄裁判所ガ必要ト認メレバ調ベマセウ、必要ト認メナケレバ調ベナイト云フ事ニナリマセウ、ソレハ疏明ノミデハナ、事件ニ付テノ證據ノ申請ヲスル場合モ同様デアリマス、證據ノ申請ヲシタカラ、必ズ審理セラレナケレバナラスモノデアアルマイ、今ノ疏明ノ場合デモ、辯護人ガ十人居ッテカラ皆調ベル、傍聽人ガ百人居ッテカラ皆調ベル、斯ウ云フコトヲ申出デマシタ場合ニ、裁判所ガ申出ラレタル通り全部調ベルト云フコトハ必要デアアルマイ、必要ト思フ限度ニ於テ、調ベル必要ガアラバ調ベル、調ベル必要ガ無ケレド調ベヌ、ドウモ斯ウ云フヨリ仕方ガナ

○禮委員 只今ノ問答デ、此ニ書イテアル字ノ意義ガ、民事訴訟法ト違フト云フコトガ能ク分リマシタ、サウシマス、此案ノ趣意ハ三日内ニ書面ヲ以テ疏明ヲスルト云フコトハ證據トナル、其證據ノ力ノ薄弱ナルト否トハ別問題ト致シマシテ、何カ矢張證據トナルベキ材料ガ提供セラレナケレバナラスノデアアルカ、或ハサウデナシニ、唯タ事實關係ヲ明白ニ書面デ書イテ出シテソレヲ判事ガ此證據ニ依ッテ其事實關係ヲ書イタ所ニ依ッテ、或ハ偏頗ガアルトカ、偏頗ノ處ガ無イトカ云フコトヲ裁判スルト云フヤウナ意味デアアルカ此點ヲハキリ致シテ置キタイト思ヒマス、何デモ彼デモ矢張材料ハ提供シナケレバナラスコトハ必要デアアルカ、或ハ材料ガ無クテモ、事實ヲ書イタコトガアレバソレダケデ疏明ノ要件ヲ充タスコトガ出來ルノデアアルカドウカ

○林政府委員 本案ノ疏明ト云フ事ハ、本案ニ於テ特別ノ意味ヲ取ッテ譯デナイ、唯タ民訴ノ様ニ制限ガ無イト云フ次第デアリマス、カ、必シモ材料ヲ三日内ニ出ス必要ガナ、斯ウ云フ材料ガアルト云フ事ヲ指示スレバソレデ宜シ、併ナガラ唯タ自己ノ申立ッテ書イタノミデハイケナイ、裁判所ガ判斷スルニ付キマシテ、斯ウ云フ材料ガ知ッテ、誰々ガ知

テ居ル、訴訟記録ニ斯ウナッテ居ルト云フ様ニ、材料ヲ指示スレバ、必シモ提示スル必要ガナイ、書面ニ斯ウ云フ材料ガアルト云フコトヲ書ケバソレデ宜シノデアリマス

○横山(勝)委員 二十七條ノ末項ノ規定ニ付テ、一應意見ヲ聽キマス、ソレハ忌避セラレタル判事ガ、意見書ヲ出ス場合、制限ハ第二十八條ノ第四項但書及第二十九條ノ場合ヲ除クノ外、忌避ノ申立ニ對シ意見書ヲ差出スベシ、ソレデハ経験カラ言フノデアリマス、餘リ理窟ニ宜ラヌ御答辯ヲ願ヒタイ、從來ノ意見書ガ二三行書イテアル、忌避ノ原因無シ、吾々ノ方デハ何十枚ト骨ヲ折テ理窟ヲ書イテ出シデモ、裁判所ノ答辯書トカ、意見書ハ大抵二三行デ、半紙半枚ニ、番號カラ職員ノ名前カラ判マデ捺シテアッテ忌避ノ原因無シト思料ス、是ダケデアリマス、ソレナ物ハ五枚アッテモ、十枚アッテモ、一向裁判所ノ材料ニナラヌ、意見書ヲ出スト云フコトハ、恐ラク答辯書ヲ出スト云フ意味ニ解釋シテ居ル、從來ノヤウナ事デアルト、原告ノ側ニ屬スル忌避權ハ如何ニ事情ガアッテモ、裁判所ノ方デハ知ラヌ類ヲシテ裁判スル、斯ウ云フ實際ノ事情ガアリマス、ソコデ私ハ意見書ト云フ意味ハ、少クトモ被告人並ニ辯護人ガ申出デタル事實ニ對應スベキ事實證據方法ヲ掲ゲテ意見書ヲ差出スベシ、斯ウ云フ立法ノ精神デアルト、思ヒマス、果シテサウデアルカ、若シサウデアリマスレバ、此處ニサウ云フ意味ヲ明瞭ニ書加ヘテ置キマス、私ハ從來ノ如キ弊害ニ陥ラズ、其意見書ヲ差出スコトガ效力ガ無イカト思ヒマス

○林政府委員 此法文ニハ意見書ノ出シ方、又意見書ニドレダケノ事ヲ書クベキカト云フコトニ付テハ、何等ノ準則ガ定メテナイ、要スルニ忌避ノ申立ニ對シテ、ドウ云フ意見ガアルト云フコトヲ書面ニ書イテ出サナレバナラヌ、是ダケノ趣意デアリマス、如何ナル程度ニ、如何ナル狀態ニ、其意見ヲ現ハスカト云フコトハ、是ハドウモ其人ニ委セナレバナラヌ、法律デ一々規定スル譯ニ行クマイト思ヒマス

○林政府委員 此法文ニハ意見書ノ出シ方、又意見書ニドレダケノ事ヲ書クベキカト云フコトニ付テハ、何等ノ準則ガ定メテナイ、要スルニ忌避ノ申立ニ對シテ、ドウ云フ意見ガアルト云フコトヲ書面ニ書イテ出サナレバナラヌ、是ダケノ趣意デアリマス、如何ナル程度ニ、如何ナル狀態ニ、其意見ヲ現ハスカト云フコトハ、是ハドウモ其人ニ委セナレバナラヌ、法律デ一々規定スル譯ニ行クマイト思ヒマス

○宮古委員 多クノ諸君モ亦疑義ヲ挿シテ居ラレタルヤウデアリマスガ、之ニ依リマス、頗ル妙ナモノデアルト思フ、「訴訟ヲ遅延セシムル目的ノミヲ以テ爲シタルコト明白ナル忌避ノ申立ハ決定ヲ以テ之ヲ却下スベシ」此場合ニ於テハ前條第二項ノ規定ヲ適用セス」ト云フノデ、即チ第二十八條ノ二項ニ「忌避セラレタル判事ハ前項ノ決定ニ關與スルコトヲ得ス」之ヲ適用シナイ、ソレカラ第二十九條ノ二項ニ「前項ノ場合ニ於テハ忌避セラレタル豫審判事、受命判事又ハ區裁判所判事ハ忌避ノ申立ヲ却下スル裁判ヲ爲スコトヲ得」斯ウ云フコトニ書イテアリマス、ソレデ此訴訟ヲ遅延

スル目的ノミヲ以テ爲シタルコトガ明白デアルト云フコトノ判斷ヲスル人ハ忌避ヲサレタル所ノ者ガ大分含マレテ居ル、第二項ノ豫審判事、受命判事、區裁判所ノ判事ノ如キハ、自分デ忌避サレテ自分デ裁判スルノデアルト、此忌避ノ申立ハ元來訴訟ヲ遅延スル目的デシタルノデアルト認メレバ、勝手ニ却下ガ出來ルヤウニ見エマス、ソレカラ第二十九條第一項「此ノ場合ニ於テハ前條第二項ノ規定ヲ適用セス」ト云フノハ、忌避サレタル人モ無論加ヘル譯デアリマスガ、サウ云フ人ガ居テハ折角忌避ノ申立ガ出來ルト云フ精神ガ、殆ド沒却サレルト云フコトニナリハシナイカト思フ、故ニ斯様ナ條文ハ不都合ト思ヒマス、全部削除シテハ如何カト思ヒマス、政府ノ見ル所ハ如何デアリマス、此點ニ付テノ詳細ノ御答辯ヲ仰ギマス

○林政府委員 只今ノ御尋ノ點ハ既ニ前同ニモ御尋ガアリマシテ、御答ハシテ置キマシタガ、第二十九條ハ訴訟ヲ遅延セシムル目的ノミヲ以テ爲シタルコト明白ナルト云フノデ「明白」ト云フコトガ特ニアリマス、「明白」ト云フコトハ何人ガ見テモ疑ナクサウダト云フコトヲ直覺スルヤウナ場合ヲ云フノデアリマス、サウ云フ特別顯著ナル事情ガ伴フ場合ニ於テモ、忌避ノ申立ガアルト訴訟手續ヲ停止シナレバナラヌ、サウ云フ事ニナルト進行上ニ大ニ妨害ニナル、サウ云フ忌避ハ澤山アリマス、併ナガラ絶無トハ云ヘマセヌ、サウ云フ不當ノ忌避ガアッテ、ソレニ依テ訴訟手續ガ進行上妨害ヲ受ケル場合ニ於テハ、之ヲ却下シテ進行スル、斯ウ云フ事ハ已ムヲ得ナイト思フ、故ニ實際ニ於テハ必要デアルト思ヒマス、併ナガラ「明白ナル」ト云フ特ニ條件ガ這入レテ居リマス、明白デアナイニ此條文ヲ適用シテ却下スルト云フコトハ、職權濫用ニナル、サウ云フ事ガアラウトハ法律ハ豫想致シマセヌ、殊ニ忌避ノ申立ヲ却下スレバ、即時抗告ノ規定ガアッテ、上級審デ審査スルノデアリマス、此規定ヲ濫用スルコト忌避權ノ濫用ヲ防グコトニナリマス、故ニ此規定ハ是非存置シタイト考ヘマス

○宮古委員 成程法文ヲ見ルト、「明白」ト云フ字ガ確ニアリマス、併ナガラ明白デアルカナイカト云フコトヲ判斷スルノハ、矢張忌避サレタル人ガ爲スヤウニナッテ居ル、其外ノ人モ無論アリマス、數多ノ場合ニ於テ忌避サレタル人ガ明白ナルモノト認メレバ、ソレデ以テ却下ノ裁判ガ出來ルコトニナッテ居リマス、今日迄澤山ナル忌避ノ申立ガアッテ、一向ニ申立ガ立ッテコトガナイノハ、最モ實際上忌避ノ事ニ精通サレテ居ル横山君ガ先刻カラ述ベラレテ居リマスガ、サウ云フ譯デアリマス、殆ド横山君ガ申サレタヤウナ事件ハ、多クハ——是モ全部ト云フテハ語弊ガアリマス

○林政府委員 只今具體的ニドウ云フ事件ニ付テノ忌避ノ申請ガサウデアッタト云フコトヲ申スコトハ出來マセヌガ、併ナガラ是迄現レマシタ中デ近頃アッタ話デアリマセヌガ、古イ頃ニドウモ全體ノ事情カラ見テ、訴訟ノ進行ヲ延バスダケノ考デ忌避ノ申請ヲシタト認メナレバナラヌ、事實ノアッタコトハ事實デアリマス、サウシテハ我國ノミデアリマセヌ、外國デモ矢張サウ云フコトガアルト見エテ、獨逸ノ刑事訴訟法ノ草案ナドニ、是ト同様ノ法文ガ設ケラレテアルヤウナ關係ニナッテ居リマス、若シ將來斯ウ云フコトガナ

ルガ、先ツ訴訟ヲ遅延スル目的デ以テ忌避シタルノデハナイカト云フ疑ヲ以テ決定サレタルノデハナイカト思ハレマス、ソレデアリマス、カラ訴訟ヲ遅延サセシムル目的ト云フコトガ明白デアルカナイカト云フコトハ、各人ノ見方ニ依ルコトデアリマス、其見方ガ全ク別個ノ人ガ見テ決定スルナラバ格別デアリマスガ、サウデナク忌避サレタル人ガ見テ、明白デアルト斯ウ認メレバ矢張却下スルコトガ出來ルト云フコトガ、多クノ場合ニ於テアル譯デアリマス、サウスルトハ是非常ニ弊害ガ起ルモノデアアル、成程即時抗告ヲ許スト云フ規定ハアリマスガ、併ナガラ其規定ガアルトシテモ、斯様ナ妙ナ條文ヲ置クト云フコトハ面白クナイト思ヒマス、私ハ削除シタル方ガ良イト思フ、デアリマス、ケレドモ、ドウシテモ政府ハ之ヲ削除スルト不都合ナコトガアッテ、削除ハイカスト云フヤウナ根據ガアルノデアリマセウカ

○林政府委員 忌避權ハ餘程重大ナル事柄デアッテ、是ハ輕々シク行フベキコトデナイコトハ言フマデモナイ、併ナガラ往々ニシテ輕率ニ行ハレタル虞ハナイデハナイ、此場合ニ於テ若シ多少ニテモ疑ガアレバ、此條文ハ適用シナイ、只今明白デアルカ明白デアナイカト云フ事モ、人々ノ見ル所ニ依ルノデアアルト言ハレマシタケレドモ、疑アル場合ニ於テハ人々ノ見ル所ニ依ッテ判斷ガ違ヒマセウケレドモ、明白ト云フコトハ、十目ノ一致スル所デアッテ、誰ガ見デモサウ云フ事情デアルト云フコトガ明白デアルノヲ言フノデアリマス、サウシテ此濫用ニ依ッテ害ヲ防グコトガ出來マス、此條文ハ適當ナル規定デアルト思ヒマス

○横山(金)委員 序ニ伺ヒマスガ、サウスルト是迄ノ事例ト致シテ、訴訟ヲ遅延セシムル目的ノミヲ以テ爲シタルコトノ明白ナル忌避ノ申立ガ、是迄幾度カ有ッタノデアリマス、若シ有リトシマスレバ、ソレハ事例トシテ如何ナル場合ニ有ッタカ、若シ前例無カリシトスルナラバ、ドウ云フ動機ヨリ此二十九條ヲ新ニ提出セラレタルノデアリマス、之ヲ御尋致シマス

○林政府委員 只今具體的ニドウ云フ事件ニ付テノ忌避ノ申請ガサウデアッタト云フコトヲ申スコトハ出來マセヌガ、併ナガラ是迄現レマシタ中デ近頃アッタ話デアリマセヌガ、古イ頃ニドウモ全體ノ事情カラ見テ、訴訟ノ進行ヲ延バスダケノ考デ忌避ノ申請ヲシタト認メナレバナラヌ、事實ノアッタコトハ事實デアリマス、サウシテハ我國ノミデアリマセヌ、外國デモ矢張サウ云フコトガアルト見エテ、獨逸ノ刑事訴訟法ノ草案ナドニ、是ト同様ノ法文ガ設ケラレテアルヤウナ關係ニナッテ居リマス、若シ將來斯ウ云フコトガナ

○横山(勝)委員 意味ヲ質シテ置キマスガ、急速ヲ要スルト云フ、急速ト云フ事ハ事件ノ性質、若クハ訴訟手續ノ性質ニ附着セシメテ解釋スベキモノデアルカドウデアルカ、著シイ例ヲ以テ申上ゲマスレバ、暑中休暇ガ迫ッテ居ル、若クハ年末ノ休ミガ來ルト云フヤウナ場合ハ、裁判所ノ側カラ云ヘバ事件ノ性質如何ニ拘ラズ急速ヲ要スル、ケレドモ事件ノ性質上休暇デモナシ、又暮ノ休ミデモナイガ、今申上ゲル通り證人ガ遠隔ノ地ヘ行ッテ居ナクナルト云フヤウナ場合ニハ、之ニ當ルノデアル、斯ウ云フ意味デアリマスルカ、如何デアリマスルカ、ソレヲ確メテ置キタイ、而シテ只今御話ノ如ク急速ヲ要スル場合ハ此ノ限ニ非ズト云フ意味ハ、證人ナドノ訊問ヲスル場合ニ限ラレテ居ルケレドモ、急速ヲ要スル事項ニ付テハ此ノ限ニ非ス、斯ウシタ方ガ宜シクハナイカト思ヒマスガ、場合ト云フ文字ヲ用キレバ裁判所ガ休ミニナルカラ急速ヲ要スル場合デアル、サウ云フヤウニシナイデ、急速ヲ要スル事項、只今ノ證人ガ西洋ヘ行ッテ居ナクナルト云フヤウナ場合ト云フコトニシク方ガ穩當デハナイカト思ヒマス

○林政府委員 本條ノ但書ハ先程申シタヤウナ場合ヲ言フノデアリマス、矢張場合ト云フ言葉デ意味ハ分ルト思ヒマス、御話ノヤウニ休暇デアルカラ、急グト云フヤウナコトハ當ラスト云フ事ハ疑ナイ

○横山(金)委員 只今上昌君ヨリ御尋ニナリマシタ五十條デス、裁判ノ告知ハ公判廷ニ於テハ宣告ニ依ッテ爲ス場合ト、裁判所ノ謄本ヲ送達シテ爲ス場合ト二ツアル、是ハ能ク分ッテ居ル、所ガ三十四條ハ「前二條ノ決定ハ之ヲ送達セス」ト云フダケデ、告知ヲ要セナイトアッテ、徹底的ニ理解スル譯ニ行カナイノデアリマスガ、此點ハドウ考ヘタラ宜イノデスカ

○林政府委員 裁判ハ性質上告知ヲ要スルモノト考ヘテ居リマス、即チ裁判ハ國家ノ意思ヲ決定シテ、外部ニ表示スル働キデアル、唯三十四條ハ送達ト云フ形式ハ要ラナイノデ、且ツ法廷ニ於テ宣告スルノデナイカラ、前段ノ適用ハナイ、併ナガラ告知ト云フコトハ必要デアル、ソコデ何等カノ方法ニ依ッテ告知ハシナケレバナラス、唯方法ヲ法律ハ限定シナイ、便宜デ宜シイ、斯ウ云フ意味デアリマス

○鶴澤委員長 ソレデハ今日ハ是マデ、明日ハ午前十時

午後四時二十五分散會

大正十一年二月二十三日印刷

大正十一年二月二十四日發行

衆議院事務局

印刷者 印刷局